

第七章 罰則

五四二

- 第三十四條 營業鑑札ヲ受ケヌシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅通脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス
- 第三十五條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同シ其罪ヲ論ス
- 第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若シハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十七條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同シ其罪ヲ論ス
- 第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス
- 第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得ヌシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十條 未製造ノ煙草ヲ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第四十一條 第十三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス
- 第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第三十五條第三十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十三條 煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上貳圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ二圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第四十七條 煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ニ處分ス

○煙草稅則施行ニ付心得方(明治十六年六月四日)

明治十五年十二月第六十三號布告煙草稅則本年七月一日ヨリ施行候ニ付左ノ通心得ヘシ
煙草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造煙草ヲ所持スル者ハ本年限リ其所持人ニ於テ

(稅則門) (煙草稅則施行心得方) (煙草則中心得方)

稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシ
 稅則施行前既ニ裝置スル製造煙草ハ本年限リ其裝置ノ儘賣捌コトヲ得尤稅則第十三條ニ照シ不足ニ係ル印紙ハ増加貼用スヘシ
 印紙ハ舊長印紙及ヒ拾錢印紙ヲ除クノ外當分新舊取交セ使用スヘシ
 舊長印紙及ヒ拾錢印紙ハ印紙賣捌所ニ就テ引換ヲ乞フヘシ

○烟草稅則中心得方(明治十六年十一月)

明治十五年^{十一月}第六十三號布告烟草稅則中左ノ通心得ヘシ

- 第一項 稅則第二條製造人ハ未製造ノ煙草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人ハ賣渡スヲ云フ
- 第二項 稅則第三十二條煙草(營業者)トアルハ製造人仲買人ノヨチ云フ
- 第三項 稅則第二十條煙草印紙ノ貼用ハ第二號離形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ付記スヘシ帶印紙ハ結束以上兩端ニ餘紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス
- 第四項 稅則第二十二條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印紙^ニ彩紋ノ側面ヘ記載スヘシ
- 第五項 稅則第十四條煙草印紙ノ消印ハ七分以上ヲモツテ用非黒肉ヲ以テ押捺スヘシ

第六項 稅則第十七條ニ據リ輸出煙草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝置種類ヲ分テ個數量月及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關ヘ願出シ檢査ヲ受クヘシ

第七項 稅則第三十三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ

- 製造人
 烟草製造帳 年月日種類及ヒ未製造煙草何程ヲ何某ヨリ買入レ何程ニ製造シ其裝置種類定額區別量目個數代價及ヒ賣渡ノ數等ヲ記スヘシ
- 仲買人
 烟草買入帳 年月日種類價格量目及ヒ賣主ノ氏名住所ヲ記スヘシ但未製造煙草ト製造煙草トハ帳簿若クハ記入口際ヲ異ニスヘシ
- 同
 烟草賣渡帳 年月日種類價格量目及ヒ買主ノ氏名住所ヲ記スヘシ但書前ニ同シ
- 小賣人
 烟草買入帳 未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ仲買人ノ帳簿ト同シ

第八項 稅則第二十七條第二十八條ノ届出ヲ爲ストキハ第二號離形ニ倣ヒ之ヲ調製ス

第九項 稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號離形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項 烟草製造人ハ其製造所及ヒ機器ノ員數増減共其時々管轄廳ヘ届出ヘシ但賃切

(租稅門) (烟草稅則中心得方) (烟草稅則備指金)

リニ付スルモノハ其貸切人ノ氏名住所并使用スル器械ノ員數及ヒ増減トモ其時々管轄廳へ届出ヘシ

第十一項 仲買人小賣人ニシテ裝置烟草ヲ五匁以下崩賣ニ爲ストキハ税則第十五條ニ據リ結束スルニシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スヘシ

(雜形略ス)

●烟草小賣ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省へ伺(十六年六月十一日)

烟草製造人ヨリ賣取ヲ受ケ自家ニ於テ製造スル者烟草小賣ノ免許ヲ受ケ其店頭ニテ販賣スルハ裝置及消印等ニ據リ自他ノ區別ヲ立ツヘシト雖モ實際曖昧ニ涉リ弊害ヲ生スヘキニ付前條小賣ハ許可セサル方可然ヤ右相伺候也

○指令(十六年六月廿二日)

願出ニ在野免許スヘシ

●卷烟草ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省へ伺(十六年六月十八日)

卷烟草ノ印紙貼用ニ及ハス且ツ烟店營業人ノ外ニ於テ賣買スルモ不審哉右相伺候也

○指令(十六年六月廿三日)

前段申出ノ趣後段營業人ノ外販賣不相成

●烟草營業者自宅ニ於テ烟草ヲ製造セシムルノ儀ニ付長崎縣ヨリ大藏省へ伺(十六年六月廿九日)

賣切人ニ付テ烟草製造セシムルノ營業者自宅ノ外ニテモ造賣ナキヤ右相伺候也

○同上指令(十六年六月三十日)

本年第二十號布達第十項ノ手續ヲ經タルモノハ申出之趣

●卷煙ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省へ伺(十六年七月五日)

税則第十三條ノ裝置區分ニ刻莖トノミ明文アリ刻マサル莖葉ハ如何スヘキヤ右相伺候也

○同上指令(十六年七月七日)

裝置區分刻莖ノ外ニテ刻マサル莖葉ハ如何スヘキヤ右相伺候也

●製造人ニ於テ買入タル葉烟草賣買ノ儀ニ付鳥取縣ヨリ大藏省へ伺(十六年六月廿八日)

製造人ニ於テ買入タル葉烟草ヲ他ノ製造人仲買人ニ賣渡ス葉ハ不相成哉相伺候也

○同上指令(十六年六月三十日)

仲買免許ヲ得サレハ相成ス

●烟草印紙買入鑑札ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省へ伺(十六年七月五日)

烟草營業同印紙賣捌業ノモノト雖モ印紙買入鑑札下付スヘキヤ右相伺候也

○同上指令(十六年七月十七日)

同之通

●烟草鑑札下附並ニ區分方ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省へ伺(十六年七月十四日)

烟草引替小賣及自廢業ノ者税則改定施行前ヨリノ殘葉烟草賣捌ニ鑑札下付スヘキヤ烟草引替小賣ノ鑑札表面ハ姓名ノ上ニ營業ノ區分アルニ付キ單ニ仕入出賣ト而已區分

○同上指令(十六年七月三十日)

右相伺候也

●烟草崩賣ノ儀ニ付茨城縣ヨリ大藏省へ伺(十七年七月廿三日)

刻烟草五匁以上崩賣ニ爲スハ五匁五ノミニ限ルヤ將々税則第十三條ニ據リ裝置セシ内何レヲ崩賣ニナスモ妨ケナキヤ右相伺候也

●烟草小賣人賃切ノ際箱詰玉造ヲモ爲シ得ヘキヤ否ノ儀ニ付富山縣ヨリ大藏省へ伺(十六年七月三十日)

(租稅門) (煙草稅則伺指令)

廿八年七月

官報第一號發賣烟膏小賣人貨銀ヲ愛ク自家ニ於テ製造トアルハ箱詰玉造ヲモ爲ス

ヲ得ヘキヤ右伺候也

○指令(十六年八月一日) 賣切人ノ自家ニ於テ刻マシメル烟草ヲ箱詰紙包ミ等ニ裝置スルハ製造人ニ於テ

スヘキモノノ下心得ヘシ

●烟草印紙貼用ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺(十六年七月三十一日)

烟草稅則改正前ヨリ製造ノ儘持越タル玉造八角印紙ヲ貼用スルモ蓋文ナキヤ右伺候也

○指令(十六年八月三日) 中出ノ通

●烟草稅則實施上疑議之廉熊本縣ヨリ大藏省ヘ伺(十六年十月二十六日)

國立銀行其他ニ於テ烟草稅則改正施行以前貯蓄金ノ括當費トシテ取置タル未製造烟草

ノ流通トナリタルヲ所持スルモノ有之トキ該烟草ハ賣却ノ途ナシモノ、如シ然レトモ

此場ニ於テハ仲買營業ノ免許ヲ與ヘ賣却セシメ可然哉此段相伺候也

○指令(十六年十二月十日) 伺之通

府知事宛

第三號 離形

八種札番號人(製造)

煙草 (仲買) 營業

(小賣)

營業人住所姓名

木札 寸法巾八寸堅二尺九寸

賣藥規則(十一年第二十號)

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸散膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥ヲ調製シ効能書ヲ附

シ販賣スルモノヲ云フ九號布告

正改 ○第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其

管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許ヲ受ケケル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其簡所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘ

シ十一年第二十七號布告本文中削字

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ

生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ十一年第二十七號

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者ハ其由ヲ届

出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ

營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑

札ヲ受クヘシ十一年第二十七號布告全文改正

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

(租稅門)

(賣藥規則)

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント

欲スルキハ其由テ管轄廳ニ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此

期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ十九年勅令第七十

次ニ出ス

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ

月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營

業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ十一年七號布告

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ニ

届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前

書換テ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限内中共相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ

管轄ニ鑑札名前書換テ請フヘシ十年第八十號布告改正

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總

テ諸鑑札ヲ返納スルコトアルヘシ

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ十四年第二十六號布

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金二十錢同上布告次ノ

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘ

シ十五年第五十號布告追加

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘ

シ

第十八條 税金ハ毎年度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日

限リ鑑札料ハ其年度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ十一年第四號布告ヲ以テ税金納期

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年

分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ十一年

勅令第七十號布告但シテ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商スル者ハ其詳細ヲ詳記シテ管轄廳

ニ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

(租稅門)

(賣藥規則)

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科ス

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請買スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請買セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケシテ私ニ藥味分量能書ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ヲテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請買者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請買者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付三十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ十四年第二十六號布告文中追加

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ價造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没收シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 賣以上ノ犯則ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取証ノ上相違ナキニ於テハ其賣トシテ其罰金ノ半高キ與フヘシ

○賣藥印紙稅規則(十五年十二月廿七日 第五十一布告)

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス
第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

○印稅ノ割合

- 一 定價壹錢迄 印稅壹厘
- 一 定價貳錢迄 印稅貳厘
- 一 定價五錢迄 印稅五厘
- 一 定價拾錢迄 印稅壹錢

第二條 印紙種目左ノ如シ

- 壹厘 淡黑色 貳厘 青色 三厘 黃色
- 五厘 茶褐色 壹錢 赭色 貳錢 綠色
- 三錢 濃青色 四錢 橙黃色 五錢 紫色
- 拾錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ但印紙面ノ中心ヨリ他所へ掛ケ消印スヘシ

(稅規則) (賣藥印紙稅規則)

- 第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌ク者トス
- 第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ不足印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受タル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス右奉 勅旨布告候事

○賣藥自用者ニ係ル件(十九年十月廿一日大敕)
(省令第三十一號)

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預ケ置キ又ハ所持スルヲ得ヌ犯ス者ハ金壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

○賣藥印紙交換規則(十九年七月七日大敕)
(省令第三十三號)

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタル者ヲ廢業センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬

スル場合ニ於テ一八分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換料ヘシ然レ一三十一日

- 一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢
- 一 貳拾圓以上壹圓三付 同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ヌ三十一日

第三條 賣藥印紙ノ交換願出ツル者ハ賣藥ノ簡數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ検査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟シ證ト爲シ其賣藥ヲ平戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ三十一日

◎醬油稅則(明治十八年五月)
(八口第拾號布告)

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七嶋小笠原函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

(別紙)

第一條 凡ソ醬油(油類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

(租稅門) (賣藥印紙交換規則) (醬油稅則)

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年

金五圓

造石稅 製造高壹石ニ付

金壹圓

第三條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條 醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第五條 免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲ストコトヲ得ス

第六條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受ケルトキ其半分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第七條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

第二期 一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第四期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條 醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第九條 廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出檢査ヲ受ケ其石數ニ就キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條 檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條 檢査既濟ノ醬油其造石稅納期內ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢棄ニ屬シ若シハ腐敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若シハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出し其造石稅ニ相當ナル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

(稅務門)

(醬油稅則)

第十四條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十五條 醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條 醬油製造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條 醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サズ

第十九條 醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス第二十一條 醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年壹斗五升ノ割合ヲ超ニルコトヲ得ス

第二十二條 醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但主任官ノ證憑ヲ携帯スヘシ

第二十四條 第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ沒收ス

第二十條ニ違ヒ卸賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條 醬油ヲ隠蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラス其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ沒收ス但検査既濟ノ醬油ト検査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隠蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十六條 第八條第九條第十條ノ検査ヲ受ケスレテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ沒收ス

第二十七條 第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ油醬ヲ代造シ又ハ代造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條 第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓渡讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ製成シ又若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ検査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用

シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ間封ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出
 ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第三十條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス
 第三十一條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者
 ヲ處罰ス

○外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石税金下戻ノ手續(明治十八年七月六日)

本年五月第拾號布告醬油規則第十二條ニ據リ外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石税金下戻ノ手續
 左ノ通相定ム

- 第一項 外國輸出ニ係ル醬油ノ税金下戻ヲ請ントスルトキハ甲號書式ノ願書ニ通テ輸
 出港税關ニ差出シ其現品ノ検査ヲ經テ検査済ノ證明書ヲ受クヘシ
- 第二項 造石税金ノ下戻ヲ請フニハ乙號書式ノ願書ニ輸入港在領事ノ檢印ヲ受ケタル
 陸揚免狀若シハ其他ノ書類領事不在ノ港ニ於テハ該港税關ノ通關證 及當初輸出港税
 關ノ證明書ヲ添ヘ該税關ニ差出スヘシ
- 第三項 外國ニ輸出シ造石税金ノ下戻ヲ受ケル醬油ヲ更ニ輸入スルトキハ丙號書式ノ
 届書ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

(書式略之)

●未製成ノ醬油販賣ノ儲ニ付千葉縣ヨリ大藏省ニ伺(電) (明治十八年六月十一日)

●指令(電) 相成ヲス(明治十八年六月十七日)

●醬油製造場區域ノ儲ニ付熊本縣ヨリ大藏省ニ伺(電) (明治十八年六月三日)

●指令(電) 申出之通(明治十八年六月十五日)

●醬油番水ノ儲ニ付長崎縣ヨリ大藏省ニ伺(電) (明治十八年六月三十日)

●指令(電) (明治十八年七月三日)

●醬油稅則取扱ノ儲ニ付高知縣ヨリ大藏省ニ伺(電) (明治十八年七月四日)

第一條 従前醬油製造營業人ニシテ本年六月限リ廢業シ其發醬油膠ノ儘今後自家用料
 第二條 従前醬油受賣人ニシテ本年六月以前ニ於テ自家用料ノ爲メ製造セシ醬油膠ノ
 第三條 前兩條ノ旨ニ依リ本年六月限中別ニ製造スヘカラサル儲カ又ハ本年六月以前
 石散ヲ以テ計算シ年數ヲ定ム其年限中別ニ製造スヘカラサル儲カ又ハ本年六月以前
 石散製造ニ係ル年數ハ格別ニ今後更ニ制限以内ノ石散製造スルハ若シカラスヤ

(租稅門) (醬油稅則及伺指令)

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
- 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
- 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
- 雇人二人以下アル者 一箇年 金五圓
- 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
 - 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
 - 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
 - 雇人二人以下アル者 一箇年 金五圓
 - 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓
- 小賣營業稅
- 雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓
 - 雇人二人以下アル者 一箇年 金三圓

雇人ナキ者

一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼ヌル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別ス之ヲ合算スルモノトス

商店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同シ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同シ七月一日ノ雇入ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ諸期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ
第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ際ル分 其年八月三十一日限
第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ際ル分 翌年二月二十八日限

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニナラズ
（租稅門） （菓子稅則）

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分

其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分

翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造人ハ菓子并ニ其製造原品ノ賣買帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條 菓子業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帯セズシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十三條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス
第二十二條 菓子業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○菓子税則改正(附令第八號二十一年二月廿四日)

明治十八年五月第十一號布告菓子税則中左ノ通改正シ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス第八條中

製造營業税要領雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス
雇人一人アル者 一ヶ年金三圓

卸賣營業税第四項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス
雇人一人アル者 一ヶ年金三圓

小賣營業税第二項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス
雇人一人アル者 一ヶ年金貳圓

第十四條 菓子製造税額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム

第十六條 削除
第十八條 文中ハ第十四條ノ帳簿ニ九字ヲ削除シ記載ヲ爲シノ下「又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミ」ノ十二字ヲ加ス

(租税門) (菓子税則改正)

菓子露店業ノ者子第ヲシテ呼賣ヲ爲スモノハ出資證札ヲ下附シ又一人ニシテ露店呼賣
ヲ兼ル者ハ營業證札ニ枚下付スヘキヤ
●指令(電報十八年六月十三日)

露店業ノ者子第ヲシテ呼賣ヲ爲サシムルハ更ニ其子第ニ呼賣證札ヲ下附シ出資證札
ヲ下付スルノ限リニアラス又露店業ノ者呼賣ヲ兼ヌル時ハ證札ニ露店呼賣ト列記シニ
枚ヲ下付スルニ及ハス

○證券印稅規則(明治十七年五月一日)

明治七年七月第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ執行ス
但明治八年七月第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證券帳簿ハ此規則ニ據ヒ印紙ヲ貼用スヘ

第二條 證券帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

- 左ニ掲グル所ノ證券帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 但當坐預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ヲ捺捺チ請フコトヲ得
- 一當坐預リ金引出小切手 印稅五 厘 一委任狀 同 五 厘
- 一金高記載ナキ約定證文 同 壹 錢 一遺物證文 同 壹 錢

- 一跡式讓證文 同 壹 錢 一讓與證文 同 壹 錢
- 一期限ヲ定メサメ預リ金證文 同 壹 錢 一耕地小作證文 同 壹 錢
- 一雇人請合狀 同 壹 錢 一金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹 錢
- 一金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹 錢 一地主預リ證文 同 壹 錢
- 一諸物品切手 同 壹 錢 一借家證文 同 壹 錢
- 一賣買仕切書 同 壹 錢 一保險證文 同 壹 錢
- 一諸會社株券 同 壹 錢 一送金手形 同 壹 錢
- 一金高記載通帳 同 壹 錢 一諸物品判取帳 同 貳拾 錢
- 一結社約定書 同 壹 錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證券帳簿ハ金高
記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲グル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀 印稅壹 錢 一營業ニ關スル請取書 同 壹 錢
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類
右ニ掲グル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但
爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

(租稅門) (證券印稅規則)

- 一金錢借用證文
- 一金高配帳アル諸物品預リ證文
- 一諸物品買證文
- 一金高配帳アル諸般ノ契約證書
- 一金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同貳錢
- 金高五拾圓以上百圓未滿 同四錢 金高百圓以上百五拾圓未滿 同六錢
- 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同八錢 金高貳百圓以上三百圓未滿 同拾壹錢
- 金高三百圓以上四百圓未滿 同拾四錢 金高四百圓以上六百圓未滿 同貳拾錢
- 金高六百圓以上八百圓未滿 同二十六錢 金高八百圓以上千圓未滿 同三拾貳錢
- 金高千圓以上千四百圓未滿 同三拾八錢 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同四拾四錢
- 金高千七百圓以上貳千圓未滿 同五拾錢 金高貳千圓以上二千五百圓未滿 同六拾錢
- 金高二千五百圓以上三千圓未滿 同七拾錢 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同八拾錢
- 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同九拾錢 金高四千圓以上
- 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附近見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一金高百圓未滿 印稅四錢 金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ
- 一金錢當坐預リ證文 一貨物預リ證文
- 金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢 金高貳拾圓以上 同貳錢

一住所賣買證文

一金高配帳アル諸物品借用證文

一金錢定期預リ證文

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附近見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅貳錢 金高百圓以上 同四錢

一爲替手形 一荷爲替手形 一約束手形

金高五拾圓未滿 印稅壹錢 金高五拾圓以上百圓未滿 同貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿 同四錢 金高貳百圓以上五百圓未滿 同八錢

金高五百圓以上千圓未滿 同拾五錢 金高千圓以上貳千圓未滿 同貳拾五錢

金高貳千圓以上 同五拾錢

第三條 前條ニ掲グル所ノ證書帳簿ト効用テ同フモルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅則ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受タル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿名記ノ下ニ押捺スル印紙以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官以テ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌シコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿任切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲グル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

(租稅門) (證券印稅規則)

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
 一官吏準官吏若シハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若シハ公立學校病院ニ從事スルモノ各共職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ証書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ニ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ハ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿チルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側

ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若シハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若シハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若シハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消シタルモノハ印稅高十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル料料罰金ノ半額ニ相當スル料料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

(租稅門) (證券印稅規則)

第二十四條 第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上計圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○證券印紙及手形用紙ノ種類定價ヲ定ム (明治十七年五月一日)

今般第十二號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通リ相定ム

但印紙ハ當分ノ内無舊取交貼用スルコトヲ得

- 印紙 赭色 定價五厘
- 印紙 黃綠色 同 貳錢
- 印紙 紺色 同 拾錢
- 印紙 淡黑色 同 五拾錢
- 手形用紙 老綠色 定價壹錢
- 手形用紙 橙黃色 同 貳錢
- 手形用紙 淡黑色 同 四錢
- 印紙 橙黃色 同 壹圓
- 印紙 萌黃色 同 五錢
- 印紙 青色 同 貳拾五錢
- 印紙 赤色 同 壹圓
- 印紙 桔梗色 同 貳錢
- 印紙 淡黑色 同 四錢

淡紅色 同 貳拾五錢
淡青色 同 五拾錢

淡赭色 同 拾五錢

○證券帳簿印紙貼用ノ様式 (明治十七年五月十日)

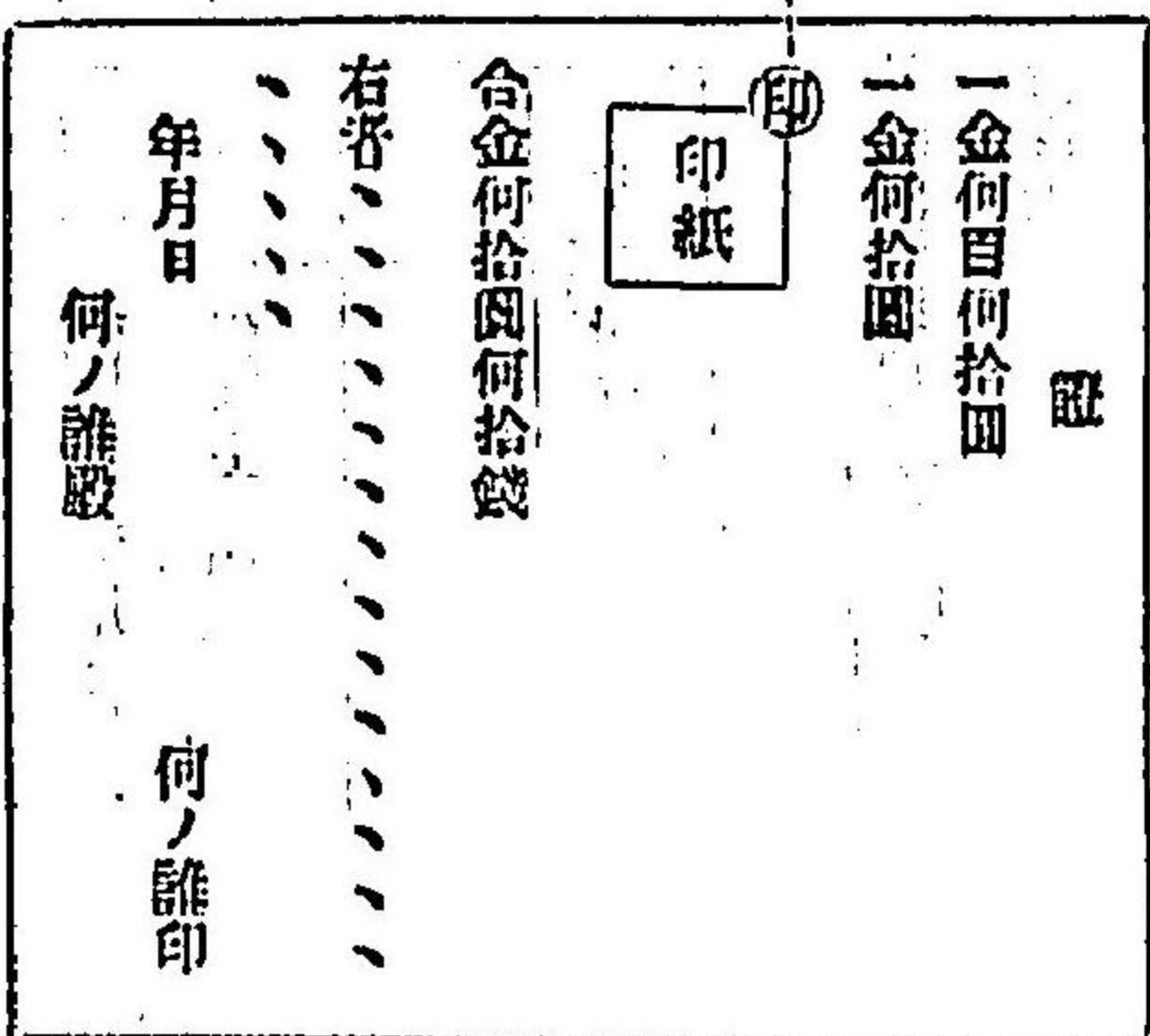
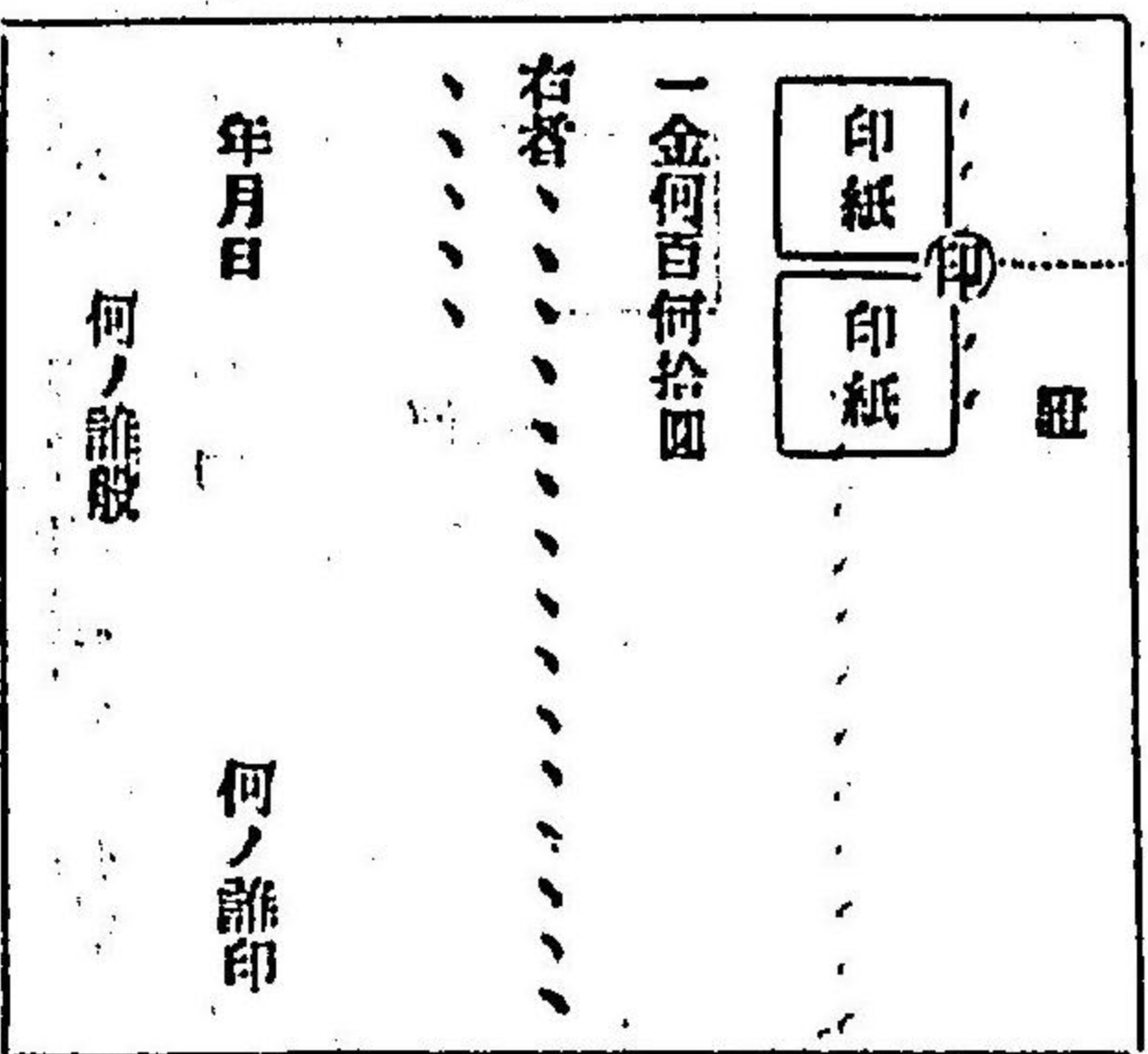
本年五月第拾壹號布告證券印稅規則改正相成候ニ付證券帳簿ノ印紙貼用ノ様式左之通相定候條此旨告示候事

金高記載證券印紙貼用様式

證券出入ノ印

全上

證券出入ノ印



(租稅門) (證券印稅規則)

金高記載ナキ證書印紙貼用様式

第一類帳簿印紙貼用様式

證書送出入ノ印

帳簿主ノ印

何證文ノ事

紙印

今般何々

年月日

何ノ誰印

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

何年何月ヨリ何年何月マテ何年紙數

何百何拾何葉

年月日

何ノ誰印

第二類帳簿印紙貼用様式

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ何年何月マテ

紙數何百何拾何葉

年月日

何ノ誰印

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ何年何月マテ

紙數何百何拾何葉

年月日

何ノ誰印

○民事訴訟印紙税 (明治十七年二月廿三日)

(租税門) (證券印稅規則)

第一條 凡シ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴訟ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用スヘシ

金額五圓マテ 貳拾錢 同拾圓マテ 三拾錢

同貳拾圓マテ 六拾錢 同五拾圓マテ 壹圓五拾錢

同七拾五圓マテ 貳圓貳拾錢 同百圓マテ 三圓

同貳百五拾圓マテ 六圓五拾錢 同五百圓マテ 拾圓

同七百五拾圓マテ 拾三圓 同千圓マテ 拾五圓

同貳千五百圓マテ 貳拾圓 同五千圓マテ 貳拾五圓

同二千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコアル可シ

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
答辯書證據物寫辭駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書
財產差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書
執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判官渡書ノ原本ヲ下付スル時差出ス受書ニハ其原本壹枚五錢其他ノ原本ヲ下付スル時差出ス受書ニハ其原本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ
但裁判官渡書ノ原本ハ壹枚十二行一行十二字餘其他ノ原本ハ壹枚二十行一行十八字餘トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ
仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ

(租稅門) (民事訴訟印紙稅)

仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

○證券印稅檢査規程(明治十七年八月十三日)

第一項 府縣稅官吏ハ明治十七年第十拾壹號布告證券印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿

ヲ檢査ヲ行フヘシ

第二項 檢査ヲ分テ二トナシ一チ定期檢査トシ一チ臨時檢査トス

第三項 定期檢査ハ毎年四五六ノ三ヶ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル

場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第四項 檢査員派遣スルニハ府廳管内チ數部ニ區劃シ每部共擔當員二名以上ヲ定ムヘシ

第五項 檢査員ハ其擔當部内ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一村若クハ數村ヲ以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ最リ檢査場ヲ設クヘシ

第六項 檢査員ハ豫メ檢査日割ヲ定メ其日割及前條檢査場ヲ其區内ノ町村ニ告知スヘシ

第七項 臨時檢査ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行ヒサルコアルヘシ

第六項 檢査ハ方々テ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ
第九項 檢査員檢査ノ要領左ノ如シ
一 證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否
一 帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否
一 貼用印紙消印ノ有無當否
一 印紙再貼用又ハ印紙偽造變造ノ有無
一 帳簿調製上詐偽ノ有無
一 證書帳簿差出方店舖商況ニ相應スルヤ否

第十項 檢査員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ受檢査人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類頁數ヲ記載スヘシ
第十一項 證書帳簿ノ檢査ヲ受ケサル者又ハ之ヲ受ケルモ尙疑訝ニ涉ル者アルキハ直ニ本人家宅ニ就テ檢査ヲ爲スヘシ

第十二項 檢査員ハ檢査セル證書帳簿ニ檢印スヘシ
● 證印稅徵收ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ニ伺(十七年三月七日)

地所賣買讓與ニテ地券ハ名面記入ノ儀出願ノ箇破損或ハ虫蝕等ニテ記入スヘキ様無之
場合ニ於テハ直ニ購受人名面ニ替換相續賣買ニ係ル證印稅ノ徵收スヘキヤ又ハ目下
所有者名面ニ書換ノ儀出願爲致更ニ賣買手續ヲナシ證印稅ハ書換並ニ賣買ニ係ル兩稅
ヲ徵收スヘキ儀ニ有之候哉判然タル明文無之儀テ聊疑礙ヲ生シ候ニ付相伺候也
● 指令(十七年三月十八日)

(租稅門) (證印稅徵收ノ儀ニ付山形縣伺同島根縣伺愛媛縣伺)

伺ノ趣前段申出ノ通賣買附與ノ區別ニヨリ相當証印稅徵收スヘキ儀ト可相心得事

●米穀借用証文ニ印紙貼用ノ儀ニ付嶋根縣ヨリ大藏省ヘ伺(十七年六)月六日

米穀借用証文ハ証券印稅規則第一類相當印紙ヲ貼用スヘキ儀

指令(十七年六)月十七日

新稅則實施後ハ金高記帳ナケレハ第一類記帳アレハ第二類相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ儀ト心得ヘシ

●證券印稅規則ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺(十七年八)月八日

証券印稅規則第一類期限ヲ定メサル預リ金証文ト第二類金銀當座預リ金証文トノ区分ハ利子ノ有無ニ仍テ區分スルモノニアラス而シテ第三條前條ニ掲ケル所ノ証券帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名冊ニ拘ハラヌ稅率ニ照レ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシノ明文アル上ハ証券差入人ニ於テ適宜ニ付記シタル名稱ニ仍リ印紙ヲ貼用センヤルモノニモアラズ右ハ如何相心得然ルヘキ儀

指令(十七年九)月五日

全ク貸借ノ性質ヲ帶ヒサルモノ即チ保固預リノ類ハ期限ヲ定メサル預リ金証文無定期預リ金ノ使用及利子等ヲ約諾スルモノハ金銀當座預リ証文ニ屬スル儀ト可相心得事

◎印紙類賣捌規則(十九年六月八日) (大藏省令第廿一號)

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス、但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ○證券印紙手形共○煙草印

紙○訴訟用印紙○賣藥印紙

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得ケル者ノ外賣下ヲ爲サルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計畫シ預メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ住居スル者ニ限り之ヲ許ス○一陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷疾ノ爲メ終身恩給ヲ受クルモノ○一巡查看守給助例ニ依リテ傷疾ノ爲メ終身恩給ヲ受クルモノ○一陸軍恩給例第廿一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲ケル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者○一巡查看守給助例第二條第三項ニ掲ケル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者ハ郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿クサルモハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ○前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定員ニ充クサルモハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 煙草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙賣捌ヲ許可セズ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス○煙草稅

(租稅門) (印紙類賣捌規則)

則第卅九條賣紙類印稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條證券印稅規則第二十九條ニ依リ
處罰ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ
受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受
クヘシ 但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ下渡ヲ受クヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡スヘシ 但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金
五百圓迄ハ公債證書ヲ抵當トナシ六ヶ月以内之レカ延納ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 印紙類ハ各一ト口ノ拂受商ニ縦ヒ左ノ割引法ヲ以テ賣下ヲ爲スヘシ
拂受商一ト口 割引商

五百圓未滿 百分ノ七
五百圓未滿 百分ノ八
五千圓以上 百分ノ九

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌ヲ得ス

第十三條 印紙類ハ必ズ定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與賣與スルコトヲ得ス
第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日
ヲ記載スヘシ 但烟草印紙賣紙類印紙賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタル者ハ十錢以上取纏メグルモ
ハニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ
損傷印紙一圓ニ對シ 交換下附印紙八十錢

第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌標
札ヲ返納スヘシ此場合ニ於テハ返納印紙面稅額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買戻
スヘシ○一廢業又ハ二ヶ月以上休業スルキ○受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又
ハ恩給停止ヲ受ケタルキ○一他郡區ニ移住スル時○一賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條 烟草印紙賣紙類印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ烟草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ烟草營業者若クハ
其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣紙類印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣紙營業者若クハ
者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等
ヲ檢査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アルキハ其情狀ニヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ於テ其
賣捌方ヲ禁止スルコトアルヘシ

(租稅門) (印紙類賣捌規則全取扱手續)

五八七

○印紙類賣捌規則取扱手續(十九年六月十二日 大藏省訓令廿二號)

- 第一項 印紙類賣捌所ノ配置ヲ計畫スルコハ從來賣捌ノ景況ニ依リ且土地ノ便宜商況等ヲ參酌シ總テ印紙ノ賣買ニ差支ナキヲ期シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二項 印紙類ハ需用ノ景況ト現在高トチ參配シ凡六ヶ月分賣下ノ見込相立第一號離形ニ倣ヒ主稅局ニ請求スヘシ
- 第三項 印紙類ノ受拂ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スル者トス
- 第四項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内第二號離形ニ倣ヒ到達ノ月日ヲ記載セシ領收證書ヲ主稅局ニ送付スヘシ
- 第五項 印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號離形ニ據リ調製下付スヘシ但二種以上賣捌クモノハ各種類チ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ
- 第六項 他府縣ヨリ轉居又ハ寄留シタル者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スルハ規則第七條二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第廿一條ニ據リ禁止セラレタルヲナキヤ否ヲ詳查スヘシ
- 第七項 印紙類賣捌人員増減ハ一ケ年ヲ二期ニ分テ第四號離形ニ倣ヒ六月末日ノ現在員ヲ取調ヘ七月二十日限り其應差立主稅局ニ送付スヘシ
- 第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ返納ヲ許可スルハ其抵當トナ

- スヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年當省乙第一號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ但代金延納ヲ許可シタルハ第五號離形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書ヲ差出サシムヘシ
- 第九項 規則第十條但書ニ據リ延納ノ代金共收入方翌年度ニ亘ル者ハ現收入年度ノ稅表ニ編入スヘシ
- 第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會檢査ヲ遂ケ若シ損傷汗染或ハ護謨糊等ニテ全ク使用シ得ヘカラサル者ヲ發見シタルハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ但天災地變等ニ罹タル者ハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明ヲ爲サシムヘシ
- 第十一項 印紙類萬一封中ノ圓數過不足ヲ生シタル者アルハ其封紙帶印ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ
- 第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日受拂及ヒ殘商ヲ記帳シ現在商ト對照スヘシ
- 第十三項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スルハ帳簿ハ現在商トチ對照シ受渡ヲ爲スヘシ
- 第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長角形ヲ區分シ)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金下附方ヲ稟議スヘシ但代金納付ト印紙納付ト其時日年度ヲ異ニスルハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ
- 第十五項 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時各郡區役所ニ主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況

(租稅門)

(印紙類賣捌規則取扱手續)

及ヒ現在商等ヲ精査セシムヘシ
(第一號第二號第三號第四號離形略ス)
(第五號離形)

消印



印紙賣下代金上納御受書

一印紙代金何圓

内譯 (印紙種類及枚數ヲ記載スヘシ)

右印紙代金ノ領ヘ來何月何日無相違上納可仕依テ右代金ニ對シ別紙公債證書ヲ抵當トシ差
出候若シ上納期日ニ不納候時ハ該公債證書御賣拂ノ上印紙代金御徵收和成聊異議無之且印
紙類ノ保護ハ勿論萬一水火盜難等有之候トモ右印紙代金ハ急度上納可致候此段御受申候也
但印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ラス直ニ上納可仕候也

年月日

何國何村何濟地

印紙類賣捌人

姓名印

他人記名ノ公債證書ヲ借受ケ抵當トスル時ハ其記名者ノ印署ヲ要ス戸長實印同斷

北海道廳長官宛

右相違無之依テ與印候也

年月日

右戸長

姓名印

○船稅規則 (明治十六年四月十七日)

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告ハ廢止ス

(別冊)

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方運器ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳

(租稅門) (船稅規則)

願出鑑札ヲ引換テ乞フヘシ
第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
同 風帆船 同 金拾圓

日本形積石五拾石以上 百石ニ付同 金貳圓
同 積石五拾石未満

解漁船小廻船積石ニシテ 長自船梁 三間迄ハ一年金三拾錢
但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船 長自船梁 三間迄ハ一年金五拾錢
但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ
但日本形積石五拾石未満ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届
出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シ
タル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換テ乞フヘシ

第十條 左ニ掲ケル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫

第十條 水田ノ耕作ニ用ヅル船 水田ノ耕作ニ用フル船トアリ右水田トハ陸田ニ對
シテ水田ノ爲メ陸田ニ備ヘ置ケル船トシテ水田ノ耕作ニ用フル船トス

第十條 橋梁ニ換ヘ渡場ヲ用フル船 橋梁ニ換ヘ渡場ヲ用フル船トシテ水田ノ耕作ニ用フル船トス

第十條 航海中本船ト揚子置ク馬船トハツテ船類トシテ水田ノ耕作ニ用フル船トス

●免稅給付債ニ付大坂府ヨリ大藏省ヘ伺(十六年七月三十日)

第一條 船稅規則第十條免稅ノ節ニ水田ノ耕作ニ用フル船トアリ右水田トハ陸田ニ對
スル船トシテ水田ノ耕作ニ用フル船トス

第二條 前條特ニ深田沼田等ヲ指稱シタルモノナレバ川中付洲及海面埋立新田等ノ耕地
ハ四圍水ヲ繞ラシ徒荒シテ耕地ニ違スル能ハス故ニ船カヲ籍リ農具作物肥料等

第三條 水田トハ深田沼田等ニシテ船カヲ籍リ農具作物肥料等
具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル船カハ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

第四條 水田トハ深田沼田等ニシテ船カヲ籍リ農具作物肥料等
具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル船カハ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

第二章 納稅

(租稅門) (租稅規則)

第十一條 税金ノ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徴收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ
第十三條 船體ヲ變更シ積量若シハ間敷ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間敷ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ運署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ酒出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ酒出納稅ヲ辨セシムヘシ

●兵庫縣伺(廿六年) 酒出納稅ノ定繫場ニ關シテ(廿六年七月十四日)

○指令(廿六年) 酒出納稅ノ定繫場ニ關シテ(廿六年七月十四日)

第十六條 蝦鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ酒出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十七條 此規則ニ犯シ稅稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ稅稅ニ係ル者ハ其稅高五倍ノ科料若シハ罰金ニ處ス

第十九條 稅稅納付有稅船ハ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○船稅徵收ノ噸數及積石數定メ方(明治十七年六月六日)

本年四月第拾號布告ヲ以テ船舶積量測度規則制定相成候ニ就テハ明治四年十二月當省造船噸數改方法則及ヒ石數改方法則右施行ノ日ヨリ廢止候條船稅徵收ノ噸數及ヒ積石數定方左ノ通相心得ヘシ

西洋形船舶ハ船免狀ノ登簿噸數ニ照シ船鑑札面ヲ改正シ其登簿噸數ニ據リ徵稅スヘシ
船免狀ヲ下付セサル西洋形船舶及ヒ日本形積石數五十石已上ノ船舶ハ測度更正濟ノ時ヨリ船鑑札面ヲ改正シ其噸數及ヒ積石數ニ據リ徵稅スヘシ
前二項ニ由リ在來徵稅ノ噸數及ヒ積石數ニ増減ヲ生シタルキハ其次期ヨリ更正ニ係ル税金徴收スヘシ

●湖川日本形船ノ徵稅付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺(廿六年七月三日)

(租稅門)

(船稅徵收ノ噸數及積石數定メ方指令)

湖川ノ日本形船ハ積石五拾石以上ト雖モ小運船ト見做シ可然ヤ相伺候也

○指令(十月十七日)

小運ニ過ニ用ナルモノニ限リ積石ニ拘ハラス小運船トス

●免稅船ノ儀ニ付德島縣ヨリ大藏省ヘ伺(明治十六年九月十三日)

一 村又ハ一部路ヲ斷斷スル一川ヲ斷ヘ耕作スルモノアリ該上流或ハ下流ニ橋梁又ハ渡船ヲ設ケルモ肥料農具等運搬迂迴不便ナルヲ以テ一村或ハ一部路又ハ一已入ニテ右耕作ニ往復スルノミニ設ケタル渡船ハ規則第廿條中橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用フル船ニ準シ免稅シ可然ヤ右相伺候也

○指令 伺之通(明治十六年九月廿五日)

●船稅免否ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺(明治十六年九月十日)

第一條 官報第五十六號伺指令欄内大坂府伺第二條ニ對シ御指令用附洲海國建立等ニ依リハ往來シ船ハ橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用フル船ニ準シ免稅スルヘシ
ハ甲ノ島民ニシテ一他ノ島ノ耕作物農具等運搬スル船モ同儀免稅ト心得然ルヘキ哉
第二條 甲乙兩島間若クハ甲ノ陸地ト乙ノ島嶼トノ間ニ一日數回往復スル渡船ハ橋梁ニ換フルモノトシテ免稅ト心得然ルヘキ哉右相伺候也

○指令(明治十六年十月十六日)

第二條 渡船ヲ定メ彼我ノ往復而已ニ用フル渡船ハ申出ノ通リ

●官用船處分方ノ儀ニ付秋田縣ヨリ大藏省ヘ伺(明治十六年九月廿六日)

本年四月第拾三號ヲ以テ船稅規則公布シ船稅三關ニ關スル俾前入布告布達ハ廢止セラレシ

該規則中官用船處分方明瞭ナラズ本年九月廿三號布達ニ基キ官用船ハ總テ無稅ニテ船稅規則ノ適用ヲ適宜ノ個處ニ押シ使用シ然ルヘキヤ右相伺候也

○指令 伺之通(十月十六日)

●假使用船ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺(十月十七日)

耕地暨水ノ爲メ年々堰キチナニ深淵ニシテ徒涉スル能ハス止ムヲ得ス船カヲ籍リ土木ノ運搬ノ業ヨリ船中ニテ其堰キチナニ深淵ニシテ徒涉スル能ハス止ムヲ得ス船カヲ籍リ土木

○指令 伺之通(二十七年二月二十九日)

○車稅規則(明治八年二月二十日)

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相應ニ十六年第一冊號布告ヲ以テ船稅規則ノ廢止ヲ略ス車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候也

第一期

馬車 四匹以上

同 壹匹立

荷積馬車

人力車 貳人乘

同 壹人乘

牛車

一箇年稅金三圓

壹箇年稅金貳圓

壹箇年稅金壹圓

壹箇年稅金貳圓

壹箇年稅金壹圓

壹箇年稅金壹圓

(租稅門) (伺指令) (車稅規則)

一 荷積大七八車

壹箇年税金壹圓

五九八

一 荷積中小車 但六六以下

壹箇年税金五十錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀ト可相心得事

第四則

一 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛區戶長へ取集メ其管轄應へ可相納事（明治十一年三月十四日勅令第七號）

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脱稅高ノ五倍科料タルヘキ事

○同附則（二十一年二月二十四日勅令第七號）

明治八年二月二十號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲ケル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

○耕作一途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒記方（明治六年三月二十四日勅令第七號）
本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印（免稅）ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相達候事

○大中小車區別方（明治十一年七月十五日大藏省令第三十五號府縣へ）
車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷登（全ク荷物ヲ積載スル場所）ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシテ右未滿ヲ以テ中小車（大六以下）ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

○船車へ修繕ヲ加へ稅額ニ増減ヲ生シタル片税金徵收方（明治十三年六月二十三日府縣へ達）
船車へ修繕ヲ加へ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタル片ハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ税金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事（明治十三年六月二十三日府縣へ達）

○人力車壹人貳人乘ノ區別（明治十四年九月二十二日大藏省令第三十三號府縣へ達）
人力車壹人乘ノ區別（明治十四年九月二十二日大藏省令第三十三號府縣へ達）
（租稅門）（耕作一途ニ用ユル車類車稅免除ノ檢印燒記方大中小車區別外二件） 五九九

八年第二十七號布告車稅規則中人力車ノ備横巾内法曲尺貳尺未滿ヲ以テ壹人乗トシ右以上ヲ以テ貳人乗ト相定區別可致此旨相達候事

●車稅免除ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十一月十日

食糧製造用ニ供スル薪炭ヲ製鹽場ニ送り又ハ製鹽ヲ自宅若シハ間屋船積ノ場所等ヘ運搬スルニ止リ他用ニ供セサル車ハ農夫ノ耕作一途ニ使用スルモノト取テ異ナルナキヲ以テ車稅規則第五則ニ準シ免稅シ可然哉

指令 十六年十一月廿九日 伺之趣免稅ノ限ニ無之儀ト可相心得事

●車稅ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年十二月十三日

消防器械ヲ運搬スルニ車ヲ用フルトキハ限時間ニシテ相違シ類ル便益ヲ與フル具ニ付伊業準備非常ノ時ニ限リ使用致度旨願出ルトキハ稅則中排ハヘキナシト雖モ特ニ免稅致シ然ルヘキヤ此段相伺候也

指令 十六年十二月廿四日 伺之趣

但免稅ノ檢印ヲ押捺スヘシ

●一正立ノ馬車ニ正立ニ兼用ノモノ課稅ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺十七年四月

一正立並用馬車一輛ヲ所有スル者更ニ正立ノ排輪ヲ製檢印ヲ受テ置キ時宜ニ依テ一正立或ハ二正立ノ二途ニ兼用出願スル者アリ右ハ稅額ノ壹半ニ就キ重額分課稅シ可然哉

指令 伺之趣 十七年四月廿九日

●牛馬賣買免許稅規則(明治五年十一月四日 第三百三十七號 陸軍省 軍務司)

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之儀可致候事

(別冊)

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御除驗ノ次第ニ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許紙ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬賣買綱ニ付免許紙壹枚相渡可申事

但賣買綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内二枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一年稅金壹圓上納可致事

(租稅門) (車稅ノ附ニ付伺指令牛馬賣買免許稅規則)

第五條 免許鑑札焼印並押切判ハ離形ノ通共管轄所ニテ製造致シ各縁人共ハ相渡可申事
 但鑑札相渡次第縁人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ハ可差出事
 第六條 右條取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之
 相願ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事
 但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二額美
 トシテ被下候事
 第七條 取上牛馬拂代並科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事
 第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事
 第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事七年第九百三十一號布告ヲ以テ本條追加
 但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅
 五倍ノ科料可申付事

○國立銀行(二十一年九月廿八日)

明治九年八月第六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ各條ノ銀行紙幣下附高ノ千分ノ七相
 定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事但納期ノ儀ハ一ケ年兩度ニ割合前半年分ハ七
 月三十一日限リ後半年分ハ一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

○米商會所並株式取引所收稅規則(十三年一月二十八日)

米商會所並株式取引所收稅規則左ノ通製定レ明治十八年十二月一日ヨリ執行ス但書
 第一條 會所並取引所ノ稅金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ケ月分チ翌月十日マテニ地方廳ニ上納
 ス
 米穀定期賣買 賣買各約定代金高 千分ノ二
 米穀證書定期賣買 賣買各約定代金高 萬分ノ三
 諸株式定期賣買 賣買各約定代金高 萬分ノ六
 第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル稅金ハ免除ス
 第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セス
 第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ
 第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高チ詐リ脫稅シタルトギハ頭取并百圓以上千
 圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額チ徵收スヘシ

○米商會所株式取引所仲買人認許料(十六年八月六日)

米商會所及株式取引所ノ仲買人爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ認許料ト
 シテ金三十圓ヲ農商務省ニ納ム

○米商會社株式取引所仲買人認許料規定(十六年八月十八日)

(租稅門) (國立銀行稅) (米商會社並株式取引所收稅規則)

米商會所及株式取引所仲買人認許料之價本年八月第廿八號ヲ以テ布達相成候ニ付テハ認許規定左ノ通相定候條此旨告示候事

- 第一項 米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人モ營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ
- 第二項 仲買人ニ認許ヲ與ヘタルトキハ左ノ離形ノ如キ認許證ヲ下付スヘシ(認許證略)
- 第三項 米商會所并株式取引所仲買人ニ認許證ヲ下付シタルトキハ認許料ヲ地方廳ヘ納付シ地方廳ヨリ農務省ヘ上納スヘシ(十八年農務省第二十四號告示ヲ以テ本項ヲ改正シ第四項ヲ別ル)
- 第五項 從前會所及取引所ノ定款ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許證下付セザルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ
- 第六項 仲買人左之場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許證ヲ農務省ヘ返納スヘシ但本人執行成リ離キ場合ニ於テハ親戚又ハ給合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七項 營業禁止ノ命ヲ受ケタルトキ...
- 第八項 納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタルトキ...
- 第九項 會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受ケタルトキ...
- 第十項 身分限ノ處分ヲ受ケタルトキ...

- 第七 認許證若シ盗火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許證ノ下付ヲ請願スヘシ
- 第八 氏名ヲ改メタルトキハ認許證ヲ農務省ニ差出シ書替ヲ請願スヘシ

○地方稅部

○地方稅規則(十三年四月四日)

明治十一年七月第十號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨告示候事

- 第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
 - 一 地租三分以內十三年四月十八號布告ヲ以テ五分一トアルヲ三分一ト收ム
 - 一 營業稅并ニ雜稅
 - 一 戶數割
- 第二條 營業稅雜稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム十五年第二號布告ヲ以テ(種類)
- 第三條 地方稅ヲ以テ支拂スヘキ費目左ノ如シ十七年第二號布告ヲ以テ全條ヲ改正ス
 - 一 警察費
 - 一 警察廳舍建築修繕費
 - 一 土木費
 - 一 區町村土木補助費

(租稅門) (地方稅規則)

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ查定スヘシ同上決議ヲ以テ

第六條 同上

第七條 同上

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ同上第二條ノ下第三條稅目

○區町村費ハ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス（十八年八月十五日）
土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス
但非常ノ費用ハ（豫知スヘカラサル天災時變ノ費用ヲ云）別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若シハ水利土功會ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

○戶長役場諸費ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ（十七年五月七日內務省）
本年第十三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戶長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○官有地ニ對スル區町村費ノ事（十七年十一月十八日）

凡ソ官有地ハ人民ニ借用ヲ許シタルモノヲ除ク外其所在區町村費ノ賦課ニ應セサル義ト心得ベシ此旨相達シ候事
但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各々適宜ナルヘシ

○府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡金ノ割合（明治十四年二月二十日）

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告候事

- 第一條 東京府ハ警察費總高ノ拾分ノ六トス
- 第二條 京都府大坂府並各縣（沖繩縣）ハ地方稅支出高ノ拾分ノ三トス
- 第三條 前二條割合ノ外警察官吏（巡査ヲ除ク）並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ應費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム（明治十四年三月八日）

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

（租稅門）

（區町村費ハ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス外三件）

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用府
治監ニ拘留中ノ費用並ニ集
治監ニ移送ノ費用トモ
ハ國庫ヨリ支給スヘシ
第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方
税ヲ以テ支辨スヘシ

○官用ノ船舶車馬ヘ地方税ヲ賦課スルヲ得ス(明治十五年十月廿八日內務大臣
札報根室ノ四
縣ヲ除クヘ達)
官用ノ船舶車馬ヘハ明治十六年度以降地方税ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相違候
事
但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○皇族所有ノ車馬ヘ地方税ヲ賦課スルヲ禁ス(明治十六年六月九日內務大臣
根室沖繩四縣
ヲ除クヘ達)
皇族所有ノ車馬ヘハ明治十六年度以後地方税賦課不相成候條此旨相違候事

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課セス(明治十七年十月八日
第八十三號府縣函館札報
本年八月第六十六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課スルノ限ニ在ラサル儀ト心得)

ヘシ此旨相違候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方(明治十二年二月七
日第六號府縣ヘ達)
明治十一年七月第十九號布告地方稅費目第十項管内限諸達書及揭示諸費並郡區役所ニ設置ス
ル布告類揭示場新築修繕諸費ノ儀ハ從來官費ニ係ル部分ト雖モ自今地方稅ヨリ支辨スヘシ
此旨相違候事

○國庫下渡金割合方(明治十四年四月十五日第二十
八號府縣東京府沖繩縣ヲ除クヘ達)
本年二月第十六號布告第二條地方稅支出高十分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條ノ費用ヲ
除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相違候事

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方(明治十四年七月二十一日內務大臣兩省
治監ヘ達)
本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等級定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得
此旨相違候事

一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕附置
每一ケ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ

(租稅門)

(集治監ニ入ルベシ囚徒並ニ其費用區分方外五件)

者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乗シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均

ヲ以テ算出スヘシ

一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ルモノハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

○堤塘使用料並木賃渡料地方稅ニ合セ土木費ニ使用セムシ(明治十四年七月二十九日內務省令第三十號)

務省令第三十號府縣ニ達

堤塘使用料及並木敷賃渡料ノ義ハ從來雜收入トシテ大藏省ヘ上納致來候處十四年度以後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方(明治十四年九月一日內務省令第四十一號)

(警視廳府縣東京府ヲ除ク)

本年第十七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等源テ當省ヘ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○堤塘使用料下渡方(明治十四年九月二十八日內務省令第四十六號)

府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ達

堤塘使用料之義ニ付テハ明治十一年九月乙第五十八號及本年七月乙第五十三號ヲ以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ハラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村ヘ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤運帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方ヘ可屬此旨相達候事

○警察廳舎建築修繕費國庫金算出方(明治十五年一月二十六日內務省令第八號)

府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ達

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年第十號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事(十六年乙第四十四號省達算出スル)ノ下十三字ヲ刪

○賣淫罰金支拂費目(明治十五年三月十三日內務省令第十七號)

府縣(東京府沖繩縣並ニ北海道三縣ヲ除ク)ニ達

九年當省乙第廿五號賣淫罰金支拂費目相達候處右ハ若使費警察探偵費ニ遣拂仍ホ餘リアレハ檢査費ニ補充苦シカラスト改正ス尤モ徴収高及ヒ遣拂明細書届出ノ儀ハ從前ノ通此旨相達候事

○警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ヘ差繼方(明治十五年四月四日內務省令第二十三號)

府縣(沖繩縣並ニ

(租稅門)

(堤塘使用料並木賃渡料地方稅ニ合セ土木費ニ使用セシム外五件)

札幌根室ノ四縣ヲ除ク

明治十四年七月第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金ニ差繼ク可キ等ニ候條爲心得此旨相達候事

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヲ以テ支辨方(明治十六年四月十四日)

第八號警視廳府縣(沖繩)函附札幌根室四縣ヲ除ヘ達

明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○並木及堤防道路用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障碍等ニヨリ拂

下代金充用方(明治十六年四月三十日)

內務大藏兩省乙第十九號府縣(函附沖繩札幌根室四縣ヲ除ク)ハ達

並木及堤防道路又ハ用惡水路土居敷等ニ生スル竹木枯倒障碍等ニヨリ拂下タル代金ハ本年度以降明治十四年內務省乙第四十六號達ノ區分ニヨリ並木拂代金ハ並木植繼費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシ此旨相達候事

但本文ニ抵觸セシ達ハ總テ廢止之儀ト可心得事

○監獄用品賣拂代金看守罰俸等國庫地方稅收入區分方(明治十六年九月)

內務省第三十八號集治監(樺戶)三監ヲ除ク)府縣(東京府及沖繩)函附札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ハ達

國庫下付金及地方稅受ケ入レ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省達乙第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣掛代金及看守罰俸金等入納方ノ儀國庫地方ノ區分計算ニ據ラス十五年以降集治監ニ生セシモノハ總テ國庫ヘ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入セシメ候條此旨相達候事

○警察費ノ內府縣下渡金交付方(明治十七年六月十二日)

內務省乙第二十八號府縣(沖繩)北海道三縣ヲ除ク)

警察費ノ內府縣下渡金ノ儀從來大藏省ヨリ直チニ交附シ來リ候處十七年以降當省ヨリ交付候條此旨相達候事

但請求書ノ儀ハ警部給與備外國人給與ト各別ニ湖製シ受取方申出候儀ト心得ヘシ

○在府縣獄囚徒費取扱方(明治十七年六月十二日)

內務省乙第二十九號警視廳府縣(沖繩)北海道三縣ヲ除ク)

在府縣獄囚徒費取扱方左之通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

但十四年七月內務大藏兩省乙第三十四號同年九月乙第四十二號十五年十月乙第五十三號

(租稅門)

(傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヨリ支辨方外ニ件)

之達ハ十六年度リ廢止ス

- 一 集治監ニ入ルヘキ囚徒コシテ府縣獄ニアル者檢束衣食一切從前ノ賦費已失ノ費用トシテ一四一日ヨリ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ
- 但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ
- 一 十四年十月乙第五十三號達ノ内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左ノ科目表ニ照準豫算帳開整定期ノ通差出スヘシ
- 但十七年度分ハ差出ニ及ハス

(科目表略之)

●並木處分之儀ヨリ新瀉縣ヨリ内務省へ再伺(十六年六月廿二日)

去月十八日並木拂代金處分方相伺候處地方稅負擔ト協賛費負擔トニ拘ハラヌ總テ本年乙第十九號達ノ通可相心得旨御指令相成就テハ其他ノ修繕假令地方稅ノ負擔ニ係ルト雖トモ其並木古損木拂代金ハ地方稅雜收入ニ編入セス直ニ其費途ニ支辨スル儀ニ候得共其植樹費ハ地方費土木費中ニ編入セサル儀ニ候哉將々從前ノ通り之ヲ編入スルモノトセハ土木費中植樹費ノ一項ヲ別ニ掲ケ古損木拂代金ヲ以テ其費ニ充ツルノ儀ニ候哉更ニ相伺候也

○指令 十六年八月二日

伺之趣植樹費ハ土木費中へ編入シ排下代金ハ土木費雜入ニ併算シ其内譯ハ説明書ニ掲載可致事

●並木拂代金支辨ノ儀ヨリ新瀉縣ヨリ内務省へ伺(十六年六月五日)

本年四月三十日乙第十九號御達中並木拂代金ハ並木植樹費ニ其他ノ竹木拂代金ハ土木費ニ充テシムヘシト有之右並木植樹費トシテ下ケ渡シタル代金ノ内植樹費ヲ始メ間斷ノ箇所等苗木植付費用金引去ルモ尙殘金有之節ハ其殘金土木費ニ充テ支辨セシム可然哉

○指令 大藏省 十六年八月十三日

書面伺之趣並木植樹ノ費用ニ充テ尙殘餘アルキハ翌々年度へ繰越シ植樹費ニ充用候儀ト可心得事

●監獄費取扱方之儀ニ付茨城縣ヨリ内務省へ伺(十六年七月十七日)

明治十四年乙第三十四號ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分方御達ニ付已決囚ニ係ル諸費ハ總テ一ヶ月間出支附置而シテ(本支)署總囚延人員ニ分割シ國庫地方稅ノ兩費ニ精算致來候得共實際取扱上錯雜妙ナカラス隨テ精算ニ延滞ヲ來シ不便候間輕罪囚ヲ使役スル一支署費ノ如キ區界判明ニシテ兩費(國庫金地方稅金)ニ連帶セサルモノ、如キハ一ヶ月間出支附置ヲ不要其時々該囚員限リ精算相立可然哉

○指令 十六年八月十四日

書面伺之趣ハ從前之通可取計事

●已決囚ニ係ル經費區分ノ儀ニ付新瀉縣ヨリ内務省へ伺(十六年七月十三日)

一 已決囚ニ係ル經費區分ノ儀 十四年御省乙第三十四號御達中懲役人トアルハ禁獄人モ含テ候哉

一 同條但書臨時加給以下五費目ノ如キ總囚ニ關ラサル費項其囚員限リ平均ヲ以テ算出云々トアリ假令ハ一ヶ月中兩度移轉有之甲ハ刑期終身ノ者ニテハハ府縣獄ニ入ル徒ニシテ自カヲ入費ノ區分判然タルヲ以テ其都度官費或ハ地方費ト直ニ本拂ニ相立可ヘキ因然哉又ハ一ヶ月中ハ官員ノ區域ヲ不問同一ニ支拂置月未ニ至リ其囚員限リノ平均ニ算出可致儀ニ候哉

(租稅門) (伺指令)

一 獄警諸費ノ部刑具諸費ノ如キモ刑期終身ノ者及國事犯五年以上ノ者ヘモ分頭割ヲ以テ算出可致儀ニ候哉
一 囚人食費ノ如キ飯米菜代浴從前當縣ニテハ已未決出清仕決延人員ヲ以テ各費用ヲ算出致來候ヘ共右ハ已未決兩囚ノ用ト雖ル已決囚而已ニ割合候哉又ハ已決囚ニ係ル費用ノミ同囚延人員ニ算出候儀ニ候哉
指令 十六年八月十八日

第一條 已決囚ニ係ル費用ハ總テ合蓄ス
第二條 後段伺之通
但集治監ヘ押送ノ費用ハ單ニ支拂フヘシ

第三條 刑具費ハ集治監ニ係ルヘキ囚徒ニ關係之レナシ
第四條 已決囚ニ係ル費用ノミ同囚人員ヲ以テ算出スヘシ

●監獄費取扱方ノ儀ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺十六年八月八日

監獄費國庫地方稅ト區分方ノ儀ニ付テハ明治十四年御省乙第三十四號御達ニ依リ諸費ヲ消一ニ仕賄延囚員ニ割合候處國庫囚徒ノ在監セサル支署外役所等ノ費用モ混一ニ仕賄候テハ計算上ニ錯雜不尠且未決監ノ支署ニシテ僅カ輕禁錮拘留ノ刑ニ處セラレン者アルカ爲メニ其費用ノ缺著諸費連帶ノ支辨ニ混入スルハ少シク妥當ナラサル様思考候ニ付右支署外役所等全ク國庫囚徒ノ在監セサル處ノ費用ハ地方費ヲ以テ仕拂國庫囚徒ノ在監スル監署ノ費用ノミ國庫地方稅ノ連帶ニ取扱不苦候哉
指令 十六年九月七日

●監獄工業ニ係ル工錢収支金算出方ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省ヘ伺十六年八月十八日

明治十四年七月廿一日附乙第三十四號ヲ以テ御達中但時加給療養費寫真費ノ如

キ總囚ニ隔ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシト有之其他ノ明文ハ無之候得共工業費ノ如キハ各種ノ區分ヲ成サスニテ各囚動ノ延入頭ニ宛収支共算出候キハ總當ナラサル様思考候間矢張各種役業限リ人頭ニ収支共割宛算出候テ可然哉此段相伺候也

○指令 十六年十一月廿八日

伺之趣役ノ何タルワ間ハス定役ニ服ス可キ已決總囚員ノ延數ニ平均算出スヘシ
但定役ニ服セサル處刑ノ囚徒ト雖モ其役ニ就カシムルキハ本文延數ニ算入スヘシ

●不用ニ屬スル地所建物賣却代金納入方ニ付岐阜縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十月廿九日

本年九月乙第三十八號ヲ以テ國庫下付金及地方稅受入金ヲ以テ混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分十四年內務大藏兩省達乙第二十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣却代及看守罰金等納入方ノ儀御達相成候處右ニ獄舍其他地所建物ハ明文無之候得共案ヨリ該計算法ニ依リ支出シタル者ニ付若シ不用ニ屬シ賣却シタルキハ乙第三十八號御達ニ準據取扱可然ト存候此段相伺候也

○指令 十六年十一月廿八日

●雇工鐵國庫費ノ收入方ノ儀ニ付石川縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月廿二日

今回御省乙第三拾八號ヲ以テ地方國庫ノ兩費ニテ購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具等不用物品賣却代金及看守罰金等十五年度以降集治監ニ生セシモノハ國庫ヘ監視廳及口府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入スヘキ旨御達相成候處因徒雇工錢ノ儀ハ右御達ノ限リニハ無之十四年御省等乙第三十四號御達計算法ニ據リ割合兩費國庫金費ト地所下兩費トアヘ收入スヘキ旨ニ被存別紙寫之通電報ヲ以テ伺御指令有之候然ル處本年十一月七日官報第百九號ノ表大坂府ヨリ囚徒費區分方伺第二條ヘ御指令ノ趣勸味候處工錢並遊園品賣却代モ乙第三十八號御達ノ通り處外各監集治監並以下兩費ヘ收入スヘキ哉

(租稅門) (伺指令)

ニ推考致候果シテ然ラハ疑ニ本縣ヨリ伺御指令ト支吾致シ前顯シ第三十八號御達ハ履工錢等雜收入共運テ割合兩費へ收入スルニ及ハス其集治監ニ生セシモノハ國庫へ警視廳府縣ニ生セシモノハ地方費へ收入候節ニ可有之哉更ニ疑惑ヲ生シ候ニ付尙又此旨相伺候也

○指令 十六年十二月十二日

工錢收入ハ最前指令ノ通尤領置工錢ノ没收金トナルハハ第三十八號御達ニ據ルヘレ

○別紙同縣伺 十六年十月九日

已決囚工錢收入區ハ今般七第三十八號御達ノ外ナルヤ

○指令 伺之通 十六年十月十八日

●警部乘馬ノ節口附人旅行支出方ノ件ニ付大藏省ヨリ太政官へ伺 (十七年九月十八日)

警部ニシテ乘馬口附ノ者ヲ要スル節該旅費支出方ノ儀徒來雜給又ハ地方警部費ヨリ支辨スル等區々相成居候ニ付篤ト考按候處元來旅費定期第拾壹章第壹項口附ノ者ノ旅費タル官廳ヨリ接直ニ給スルニ非シテ乘馬人其人ニ給スルノ精神ト被存候果シテ然ラハ右口附ノ者ノ旅費ハ警部給與ノ部分ニ屬スル至當ナルヲ以テ以後ハ國庫ノ支辨ニシ候ト一定シ可然儀ト存候得共聊疑義ヲ生シ候ニ付此段爲念相伺候也

○指令 十七年九月三十日

●地方稅費目ノ儀ニ付農商務省ヨリ大政官ニ伺 (十七年十月二十日)

地方稅規則第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ勸業費目ノ發ハ土木費教育費等トハ稍其性質ヲ異ニスルモノニシテ等ハ博覽會共進會物產品評會勸業各會農商工事ノ改良通信統計調査等ノ如キハ其事業ノ府縣立ニ屬スルモノト人民ノ共立ニ屬スルモノトトハ均シク事業獎勵費上必要ノ用ニシテ自カラ一府縣全體ニ關スルヲ以テ右等費用ハ府縣

會ノ決儀ヲ經テ勸業目中ヨリ支出致シ法律上妨ケ無之儀ト相心得可然哉此段相伺候條至急御指揮相成度候也

追テ本文伺之通ニ有之候ハ、内務省大藏省兩省へハ本省へ御指令ノ旨趣御達相成度此段副テ上申候也

○指令 伺之通 (十七年十二月廿三日)

●在府縣獄囚徒費取扱方并地方稅豫算ノ儀ニ付鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺 (十七年十二月十二日)

本年六月御省シ第二十九號ヲ以テ在府縣獄囚徒費取扱方ノ儀御達ニ相成候處實際ノ取扱上ニ於テ疑義ヲ生シ候件々左ニ

第一條 本年六月廿四日警視廳伺 官報第三百四集治監ニ入ルヘキ囚對スル費用ハ總テ

地方費中へ混一ニ仕拂置キ月々其現人員ニ應シ一囚一日金二十錢ノ割合ヲ以テ國庫

ヨリ支出シタル金額ヲ總支出額混一ノニ應シ各費目ニ割合地方費ノ方へ戻入候テ可

然哉又ハ云々項ニ對シ前段伺ノ通御指令有之右各費目トハ監獄費中未決囚諸費ヲ除

キ俸給雜給應費已決囚諸費及ヒ監獄建築修繕費中未決囚ニ係ル部分ヲ除キ已決囚監

築修繕費ノ總金額ニ割合地方費ノ方へ戻入候儀ト相心得可然哉

第二條 本年七月三日岐阜縣伺 官報第三百八第一條未文地方稅豫算精算共警察費國庫

下渡金ニ準シテ調理シ可然哉ト云フノ項ニ對シ地方稅豫算議案及精算報告書ハ國庫

金ヲ扣除整理スルヘシト御指令有之右豫算儀案ヲ調理スルニ當リ各費目前條ノ各費

ニ就キ扣除スヘキ國庫支出ノ員額ハ在府縣獄囚徒費豫算高ヲ費目上ノ豫算總額ニ應

シ算出致候儀ト相心得可然哉

○指令 十八年四月一日

(租稅門) (伺指令)

◎海關稅之部

○海關輸出入荷物取扱條例(六年六月十四日)
內國人民一般並御雇外國人ニ至ル迄海關輸出入荷物取扱條例別冊ノ通被定候條此旨相違候事

- 第一 官省使察司及府縣官員並留學生徒ニ至ル迄政府ノ命ヲ奉シ海外ニ航旅スル者公用ノ荷物並本人相當ノ旅具ヲ除ク外輸出入共商品同様一般收稅スヘシ
- 第二 前疑ニ掲ケル官員並留學生徒發着ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送致セル貨物等無稅通關スヘキ旨大藏省ノ證書無之分ハ商品同様一切收稅スヘシ
- 第三 華士族ヨリ平民ニ至ル迄商業或ハ留學遊歷等ノ爲メ自費ヲ以テ海外ニ渡航スル者荷物輸出入ノ際本人相當ノ旅具ヲ除ク外一切收稅スヘシ
但相當旅具免稅ノ荷物ヲ定ムルハ稅關官吏ノ意見ニシテ本人之ヲ取捨増減スルコトヲ得ヘカラス
- 第四 官省使察司及府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品其自國又ハ他國ヨリ取寄或ハ御國產ヲ本國ニ差送ル分トモ自今約定書中自用品無稅通關可指許旨ノ明文無之分ハ輸出入トモ商品同様收稅スヘシ
但向後外國人雇入ノ節有稅ノ自用品ハ輸出入致スヘキ旨定約面ニ記載スヘカラス
- 第五 前條掲ケル外國人來着又ハ滿期歸國ノ節輸出入ノ荷物本人相當ノ旅費ヲ除クノ外商

品同様收稅スヘシ

品同様收稅スヘシ

○無稅輸出品并解禁(六年二月十日)

●硝石輸出ノ件(六年二月十日)

從來硝石輸出ノ備ハ御禁止ノ處自今他品同様五分ノ稅額ニテ輸出被差許候條此旨相違候事

●米麥輸出ノ件(六年七月十五日)

米麥ノ儀是迄海外輸出制禁候處國內ノ都合ニ依リ海關無稅ヲ以來ル八月一日ヨリ輸出差許候尤時宜次第此布告ヲ變換候節ハ二箇月以前ニ可相違此旨布告候事(七年五月)

布告禁止

●米麥粉輸出ノ件(六年十二月十七日)

本年七月第二四十六號布告米麥ノ儀海外輸出被差許ニ付テハ米麥粉ノ儀亦同様海關無稅ヲ以テ輸出被差許候尤時宜次第此旨布告ヲ變換候節ハ二箇月以前ニ可相違此旨布告候事

●銅鐵輸出之件(七年三月十七日)

銅鐵ノ儀ハ海外輸出禁制ノ所自今金銀貨同様海外輸出差許候條此旨布告候事

(租稅門) (無稅輸出品並輸出解禁)

●内國製ノ西洋紙及内國製ノ土産輸出ノ件(九年八月十一日)

内國製造ノ西洋紙及内國製ノ土産當分ノ内無稅輸出差許候條此旨相違候事(九年布告百三十三號)

文中則字

●内國製ノ水産輸出ノ件(九年十一月十三日)

内國製ノ水産當分ノ内無稅輸出差許候條此旨布告候事、但課稅ノ節ハ二箇月前ニ布告スヘキ事

告スヘキ事

●摺附木輸出ノ件(十年三月三日)

内國製造摺附木當分ノ内無稅輸出差許候條此旨布告候事、但輸出税賦課ノ節ハ二箇月前ニ布告スヘキ事

月前ニ布告スヘキ事

●編緋股引輸出ノ件(十年十二月十八日)

内國製木綿メリヤス編緋股引無稅輸出差許候條此旨布告候事

●フナキル紋羽綾木綿輸出ノ件(十一年九月七日)

内國製フナキル紋羽綾木綿ノ三種無稅輸出差許候條此旨布告候事

●木綿織物其他輸出ニ關スル件(十二年六月十三日)

本年七月一日ヨリ左ノ物品無稅輸出差許候條此旨布告候事、但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

ニ布告スヘキ事

木綿織物 絹織物 絹綿交織物 衣服 陶器 磁器 七寶器 漆器 竹器 銅器

鍍器 紙(屬子林團扇) 傘(屬子林團扇) 扇(屬子林團扇) 漆器(屬子林團扇) 磁器(屬子林團扇) 七寶器(屬子林團扇) 漆器(屬子林團扇) 竹器(屬子林團扇) 銅器(屬子林團扇)

●書器其他輸出ノ件(十三年六月五日)

本年七月一日ヨリ左ノ物品無稅輸出差許候條此旨布告候事、但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

書器 書箱 筆 硯 墨 硯石 木 土 藤 草 機欄 骨 角 甲 貝 牙 皮 革 蹄

羽毛 紙 糸 織物 鯨鬚 琥珀 珊瑚 貝珠 玻璃 金屬等ヲ以テ單製作レ

或ハ相交テ製作シタル諸品並右各種ノ他ノ物質トヨリ成立シタル諸製作品

●硫酸輸出ノ件(十三年七月二十日)

本年八月一日ヨリ硫酸無稅輸出差許候條此旨布告候事、但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

告スヘキ事

●硫黃輸出ノ件(十四年四月廿九日)

明治十四年五月十四日ヨリ硫黃無稅輸出差許候條此旨布告候事、但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

前ニ布告スヘキ事

●外國ニ輸出スル食鹽ハ海關稅ヲ免除ス(二十年五月二十三日)

外國ニ輸出スル食鹽(明治二十年五月二十三日)海關稅ヲ免除ス、但課稅ヲ要スルハ六ヶ月前ニ之ヲ公布スヘキ事

月前ニ之ヲ公布スヘキ事

(租稅門) (無稅輸出品並ニ關連) (租稅未納者處分方)

○朝鮮國ニ於テ製造ノ日本海關稅ノ件(十九年七月二十八日)

朝鮮國ニ於テ製造コテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

釀造酒壹石ニ付 金四圓

蒸溜酒壹石ニ付 金五圓

再製酒壹石ニ付 金六圓

○租稅未納者處分方(明治十年十一月二十一日)

租稅未納ノ者ハ從來意納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課レタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘシ若シ其財產他人ニ賣與讓與レタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ

年第十五號布告ヲ以テ(定期納付)ノ下(後三七日)ノ四字ヲ削リ

但賣入額入地所買入ハ其ノ財產ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅又ハ製造稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ

一次ニ其器物ニ及ホスヘシ(十八年第二號布告)人供關ニ別ニ賣入ルモノ其酒類及醬油造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類醬油及其製造用諸器物建物ハ自他ノ有所テ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

第三條 府縣稅民費ニ此規則ニ準シテ處分スヘシ

但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

第五條 十一年第三十號布告ヲ以テ追加

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ(十一年第三十四號)

○附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

(租稅門)

(租稅未納者處分方) (全取扱心得)

○租稅未納者處分取扱方心得 (明治十年二月二十一日)

租稅未納者處分取扱方心得 (明治十年二月二十一日) 大藏省乙第七號府縣(達)

相違候事 ○租稅未納者處分取扱方心得 (明治十年二月二十一日) 大藏省乙第七號府縣(達)

一租稅不納者且裁判所へ相違候事ハ雖モ第七十九號公布到達ノ日ヲ界トシ未ダ身代

限ノ處分ニ不取懸ハ右公布右通地方官於テ處分スルモノトス

但意納金徴收中ノ分ハ本文公布到達ノ日ヨリ意納金免除并公布ノ次第未納人へ諭達シ

尙三十日ヲ經テ不納ノ分ハ成規ノ通處分スルモノトス

一改租看手中ノ分ハ納期後三十日ヲ過キ尙不納ニ候共租額確定セザルノ故ヲ以テ其地所公

賣ノ處分ニ及ハサルモノトス此際若シ本人他人負債ノタメニ身代限ノ處分ニ係ルハ裁

判官ニ照會シ假令中ト雖モ納期後三十日ヲ過レハ該地所公賣シ其年石代相場ヲ以テ前年

ノ租額ヲ徴收スルモノトス

但共年石代未決ナレバ前年ノ石代ヲ以テス

一他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成ル際稅納ノ期限ニ到リ不納ノ分ハ其旨裁判官ニ照會シ

其未滿ニ係ル財產ハ成規ノ通公賣ノ處分ニ及フモノトス

但裁判官於テ已ニ財產賣買ニ及ヒシ場合於テハ裁判官ニ照會シ其賣代價ノ内照

受取ル額ハ前年ノ租額ニ及ビシ限ニ於テハ其租額ノ公賣ノ代價トシテ之ヲ納メ

一明治六年(二月十七日)第十八號公布地所賣入書入規則ニ照シ賣入セシ地所ノ租金質取人

ニ於テ未納スルモノ一應賣入人へ相違シ納稅セシメ不苦若シ之ヲ納メサルニ於テハ成規ノ

通處分ス

一前納ニ非ル營業稅等未ダ納期ニ至ラサルモ他ノ負債上ヨリ身代限ノ處分相成キハ裁判官

ニ照會シ其製造品及其器物ヲ公賣シ其期節ノ税金徴收スルモノトス

一逃亡失踪ノモノ納期後三十日ヲ過キ歸籍セズ納稅セサルキハ其遺族親戚財產保管人等へ

○租稅未納者取扱心得 (明治十年二月二十一日)

租稅未納者取扱心得 (明治十年二月二十一日) 大藏省乙第七號府縣(達)

相違候事 ○租稅未納者取扱心得 (明治十年二月二十一日) 大藏省乙第七號府縣(達)

一營業稅不納ノモノハ一旦營業停止其製造品及ヒ其器物ヲ公賣シ尙不足チ生スル者ハ官ノ

損失ニ歸スルハ勿論ナレトモ後來再營業ヲ願出ルルハ最前官ノ損失ニ歸セシ金員ヲ更ニ上

納セシ上ハ許可スルモノトス

一釀造稅ハ四月三十日限凡半方徴收ノ等ニ候處右期限前釀造石數檢査後他ノ事故ニテ裁判

所ニ於テ身代限ノ處分ニ相成候時ハ其節迄ノ酒相場平均ヲ以テ實際釀造着手ノ石高ニ應

ズル釀造稅收入決算スルモノトシ現存ノ酒類並器物等公賣徴稅方裁判官へ照會致スヘキ

トス

一公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以内ニ完了スヘキモノトス

一若シ財產賣却代價不足ナル平或ハ買請留人無之完納ノ場合ニ至ラサル分ハ處分濟ノ後日

以テ追加ス

(租稅未納者取扱心得)

第二十六號省令

六三一

六三一

六三一

六三一

六三一

六三一

六三一

數十五日以内ニ勘定拂テ稟申スヘシト

○諸營業免許ノ者納稅前旅行又ハ失踪ノ時徵收手續(明治十六年九月十四日大藏省第五十九號府縣令)諸營業免許ノ者納稅期限前旅行又ハ失踪シ右期限ヲ過キ歸籍セス税金不納ノモノハ明治十一年當省乙第七號達第六項ニ據リ處分スヘキノ處其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ該稅決算期限六十日以前ニ一旦勘定除却之義稟申シ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキ毎期其係不納稅ヲ追徵候義ト可相心得此旨相達候事(明治十一年第三十號府縣令)ハサレモノハ下十字ヲ削リ十一字ヲ加フ

但當初勘定除却ノ後十三ケ年ヲ經過シ尙完結セサルハ其際更ニ處分方稟申スヘシ

○租稅不納又ハ徵收シ能ハサル分稟申方(十八年六月十三日大藏省第三十四號府縣令)

租稅ノ内官損及勘定除却ヲ要スル金額稟申方ノ儀明治十六年八月第五十五號ヲ以テ相達置候處右ハ相應シ更ニ取扱方左ノ通相定ム
一 租稅不納ノ者財産公賣處分ノ未官損トナリタル金額ハ全管限束子左ノ書式ニ倣ヒ調理シ毎稅納期後四十五日以内ニ稟申スヘシ
一 荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徵收シ能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立該稅納期以前延納ノ義ヲ稟申スヘシ

○内國稅未納追徵整理順序(十九年七月二十二日大藏省訓令第三十三號)

内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定ム十六年九月第五十九號及十七年七月第五十七號當省達ハ廢止ス但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號樣式略ス)(二十年二月十五日大藏省訓令第七號ヲ以テ甲乙號樣式改正アリ)

○内國稅未滿追徵整理順序

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號樣式ノ如ク内國稅未納彙帳ヲ調製スヘシ
第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日マテニ徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ彙帳ニ登記スヘシ
但後日追徵シタルトキハ其時々彙帳ニ記載スヘシ

第三條 諸營業及給車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ年々未納彙帳ニ登記シ登キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキハ未滿ニ係ル毎期ノ税金追徵スヘシ
但未納ノ當初ヨリ滿三ケ年ヲ經過シ尙完結セサルモノハ其際更ニ處分方稟申スヘシ

第四條 北海道廳長官府知事ハ毎年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往年度未納殘高仕譯書ヲ製シ四月三十日限リ大藏省ニ送付スヘシ

(租稅門) (租稅未納者處分方) (三件)

○租稅未納者身代限ノ末棄捐方(十七年四月二十六日大藏)

明治五年第二百八十五號及同九年第四號公布ニ據リ租稅未納者身代限處分濟退徴スヘキ金

額ハ目今棄捐候事

但諸印紙賣捌人ニ係ル未納金ハ此限ニアラス

●租稅不納者公賣處分ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ大藏省ヘ伺(十六年十月)

第一條 酒類造石稅不納ニ付一旦營業ヲ停止シ罷札ヲ返納セシメ其製造品及開物トモ公賣場中ヨリ其不納金ヲ上納スルカ又ハ債主ヨリ攤納シ公賣處分取消ノ儀願出聞届ルトキハ廢ニ返納セシメシ罷札ハ再ヒ下渡シ營業停止相解キ可然哉
第二條 營業稅又ハ造石稅不納ニ付其製造品並諸開物等取調已ニ其一部製造ヲ公賣徴收シ其他開物揭示中本人又ハ債主ヨリ不納金完納スヘキ旨ヲ以テ公賣處分取消ヲ出願スルトキハ問屆可然哉
右相伺候至急御指揮被下度候也

○指令(十六年十月)

第一條 申出ノ通
第二條 製造品又ハ開物ノ内其ノ一部分公賣場行セシメ上ハ取消ノ限ニアラス
●官沒器械運搬費等支出ノ備熊本縣ヨリ大藏省ヘ伺(十六年十月十二日)
租稅不納者處分ノ末官沒器械運搬費等支出ノ儀其ノ内酒造開物ノ如キ巨大ノモノハ縣廳ニ於テ之ヲ廢置適用ノ倉庫無之ヲ以不納者本人ノ倉庫又ハ近傍明瞭等ヲ借請取調當時宜見計入札拂致來候處右運搬費及該敷賃番人給料等ハ本廳經費ヨリ支消スヘキ說又ハ國稅徵收費額ノ内ヲ以支辨スヘキ說決兼候條何分ノ御指令相成度候也

○指令(十六年十月)

何之趣前段之通り可相心得事
●官沒物品其犯則者投票之儀ニ付山形縣ヨリ司法省ヘ伺(十六年十月廿七日)
國稅ヲ納ムル營業者稅則違犯ニ罷リ其物品ヲ官沒收シ然シテ公賣之場合ニ至リシハ犯則主ト雖モ既ニ處刑済ノ上ハ投票スルモ甚屬無之哉

○指令(十七年二月)

●稅金不納者取扱方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺(十七年二月一日)
第一條 租稅不納者財產公賣處分ノ儀ハ納期翌日ヨリ三十日以内ニ完了スヘキ旨ニ付既ニ公賣處分決定シタル後稅金完納スルモ公賣處分取消ノ限リ無之ハ勿論ニ候得共公賣金ニテ稅額ニ不足ヲ生シタルモノ右期日以内ニ於テ其不足金完納スルトキハ最前引揚タル罷札ヲ返付シ營業繼續爲致可然哉
第二條 同上無財產ノモノハ罷札引揚ケ營業ヲ停止シ稅金官損拂ノ儀ヲ申渡スル迄ニテ不納者ニ對シ別段處分ノ手續ハ無之候得共納期翌日ヨリ三十日迄ハ處分中ノモノト見做シ右期日中ニ於テ稅金完納スルトキハ前條ト同レク營業繼續爲致可然哉

○指令(十七年三月)

第一條 公賣處分決定後ハ假令處分期限内其欠額ヲ追納スルト雖モ營業繼續セシムル限リニアラス
第二條 前條ニテ了解スヘキ

●納稅代理人不納ノ節處分方ニ付福島縣ヨリ大藏內務兩省ヘ伺(十八年六月廿六日)

戶長役場所轄内ニ居住セスシテ該町村ニ土地ヲ有シ地租地方稅等納稅代理人ヲ置キタ者其ノ代理人總納スルトキハ本人ニ通知セズ直ニ賦課ノ財產ヲ公賣シ苦シカラヌヤ

○貨幣門

(貨幣門) (紙貨幣ノ部) (貨幣條例)

○紙貨幣ノ部

○貨幣條例(明治八年六月二十)

新貨幣條例ノ儀明治四年五月頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則自ノ剛補等有之候ニ付本年四月第六十二號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨幣條例ノ相改候條此旨布告候事
但明治六年八月第三百八號布告銅貨圖面同七年三月第三十四號布告銀貨圖面本年三月第三十五號布告貿易銀圖面表裏ノ唱へ反對イタシ居候ニ付今般改正候事

(別冊)

皇國往古ヨリ他邦貿易ノ事少ナク貨幣之制度イマダ精密ナラス其品類各種ニシテ其價位モ亦一定セズ今其概略ヲ舉ムニハ慶長金アリ享保金アリ文字金アリ大小判金アリ一分金アリ二分金アリ三朱金アリ一分銀アリ一朱銀アリ當百錢アリ大小數種ノ銅錢アリ其他一時適用ノ貨幣ハ枚舉ニ遑アラス甚シキハ一國一郡限ノ貨幣アリテ今ニ至ルマテ僅ニ其一部ニ通用シ他方ニ流通セザルモノアリカシ其品類區々ニシテ方圖大ニ其價ヲ異ニシ混合雜駁其價位同クモ抑貨幣ノ眼目タル量目ト性合トニ至リテハ殆ント辨知スヘカラス新舊互ニ雜用シ品位自ラ低下シ其間或ハ隨造ノ幣アリテ竟ニ今日ノ甚シキニ馴致セリ偶々其性ノ貨幣ハ徒ラニ富家庫中ノ寶物トナリ或ハ外國へ輸出セシモ亦少ナカラス遂ニ諸品換用ノ能力ヲ失ヒ日用便利ノ道ヲ塞キ流通ノ公益殆ント絶エントスルニ至ル實ニコレ天下ノ窮厄ニシテ万民ノ痛心更ニ之ヲ引大ナルモノニシテ今其緣由ヲ尋繹スルニ全ク一定ノ價位ナクシテ善良否ヲ雜用スルノ弊弊ヨリ生スル事ナリ方今貿易ノ道彌盛ムナル時ニ當リテ舊弊ヲ改メ精良ノ新製ヲ設ケスルハ何チモテ流通ノ道ヲ開キ富國ノ基ヲ立ンヤ是政府ノ責任ニシテ然モ

幣價ノ急務アリ故ニ去ル明治元戌辰巳年ヨリ早ク切テ起シ莫大ノ經費ヲ厭ハス大阪ニチヨリ新ニ造幣寮ヲ建シ壯大ナル器械ヲ備ヘ廣ク宇内各國貨幣ノ眞理ヲ察知シ金銀ノ性質量目ヨリ割合ノ差等鑄造ノ方法ニ至ルマテ詳カニ普通ノ劑ヲ比較商量シ以テ精密ノ通用貨幣ヲ鑄造シ在來ノ貨幣ニ加ヘテ一般ノ流通ヲ資ケントスルノ都合ヲ謀リ既ニ開寮ノ儀典ヲ完了セリサレトモ前ニ言ヘルコトノ區々各種ノ貨幣多クハ現場諸品ノ價直チ錯亂シ方民ノ迷惑スルハカレハ漸々新幣ヲ交換シテ在來ノ通貨ハ悉ク改鑄シ都テ品類ヲ一定セシメントト御趣意ナリ且貨幣ハ天下万民ノ通貨タル趣旨ニ基キ地金ヲ持參シテ引換チ望ムモノハ其速カニ改鑄シテ通用貨幣ヲ渡スヘシサレハ今人々古來ノ舊習ヲ襲ヒ重代ノ寶物トセル古金銀ノ類モ數年ヲラスシテ全ク地金一機以モノトナルヘケレハ早ク交換通用シテ貨幣ノ眞理ヲ失ハサル様注意スヘキ事肝要ナリ斯ク新タニ造幣寮ヲ設ケシモ偏ニ万民ノ保護ヲ任スルノ職分ヲ盡スノ外他アルニアラサレハ万民亦能ク此理ヲ會得シ各ソノ務ヲ勉勵シテ天賦ノ職ヲツクスヘレ仍テ今爰ニ其次第ヲ揭示シ併セテ新貨幣ノ眞形ヲシ其量目品位表ヲ添ヘ且地金引換ヘノ規則等詳細ニ附録普ク國內ニ頒布諭告スルモノ也
明治四年辛未五月 太 政 官

貨幣條例目

一 貨幣ノ稱呼ハ圓ヲ以テ起票トシ其多寡ヲ論セス概テ圓ノ原稱ニ數字ヲ加ヘテ之ヲ計算スルニシ但シ一圓以下ハ錢一分一厘一分一釐トテ以テ少數ノ計算ニ用フヘシ
一 算則ハ都テ十進一位ノ法採用シ一厘十ヲ合シテ一錢トシ一錢十ヲ併セテ十錢トイヒ十錢十即チ百錢ト云々圓ト云々圓ヨリ上十百千萬ニ至ルトイフトモ皆チ十數ヲ合シテ一位

(貨幣門) (紙貨幣ノ部) (貨幣條例)

ヲ進シ其他半錢五錢五十錢五圓ノ如キハ十數ヲ半割シ貳拾錢貳圓貳拾圓ノ如キモ亦一十
ノ數ヲ倍スルヲ以テ之ヲ固ヨリ軌範ノ外ニ出ス
一厘ヨリ以下ハ別ニ鑄造ノ貨幣ナシト雖若シ計算ヲ要スレハ毛糸忽微細ヲ以テ微少ノ數ヲ
算スヘシ又万ヨリ以上ハ十萬百萬千萬ニ至リ千萬十即チ万々ヲ以テ一億トシ大數ノ計算
ヲ爲スヘシ

一製貨中金銀純分ノ割合及其量目ハ都テ眞形模寫ノ下ニ表出スルトイヘトモ鑄和鑄造ノ際
僅少ノ差アルヲ免カレノ故ニ今各種ノ貨幣ニ就テ其不得已シテ生スル量目並品位ノ公差
ヲ表出シテ以テ毛絲ノ微細ヲ辨折ス

貨幣通用制限

本位金貨幣 即二十圓十圓五圓ノ中一圓金ヲ以テ原貨ト定メ各種トモ何レノ拂方ニモ之ヲ用
ヒ其高ニ制限アルヘキナレ
本位トハ貨幣ノ主本ニシテ他ノ準據トナルモノナリ故ニ通用ハ際ニ制限ヲ立ルヲ要セス
尤モ一圓金ヲ以テ本位中ノ原貨ト定ムルトハ就中一圓金ヲ以テ本位ノ基本ヲ定メ他ノ四
種ノ金貨ハ都テ標準ヲ一圓金ニ取レハナリ
補助ノ銀貨 即五十錢二十錢十錢ハ都テ補助ノ貨品ニシテ其一種又ハ數種ヲ併セ用フルトモ一
ノ拂方ニ十圓ノ高ヲ限ル可シ
補助ノ銅貨 即二錢一錢ハ都テ二口ノ拂方ニ一圓ノ高ヲ限リ用ユヘシ

補助ノ本位貨幣ノ補助ニシテ其價位決定メテ融通ヲ資クルモノナリ故ニ
通用ノ際ニ之ヲ制限シテ交通ノ定規トス
此貿易銀ハ海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅及ヒ日本人外國人ト通商ノ取引ニ用ヒ又コレ
ヲ内地ノ諸稅納方等其他公私一般ノ拂方ニモ用ヒ其高ニ制限アルコトナレ
通用制限ハ元來貨幣ニ原本ト補助ト別アル所以ノ理ニ基キテ制定セシモノナレハ人々取
引ノ節右ノ制限ニ照準シモシコレニ越レハ誰ニテモ請取渡ヲ拒ムノ道理アルヘシサレドモ
私人取引ニ付便宜ノ爲メ對談ヲ以テ請取渡イタシ候備ハ全ク相互ノ都合ニ從フ等ナレハ右
制限ニ不拘勝手次第ニ交通イメレ不苦候事

○貿易銀貨一般ニ通用

貿易銀貨ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ限リ通用候處今般更ニ一般
ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上都テ授受可致此旨布告候事
海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅受取方ニ付貿易銀トモ新舊ト本位金貨トノ價格比較ハ銀
貨百枚ニ付本位金貨百圓ノ割合ナルヘシ九年第七號布告ハ全項改正

○通用貨幣ノ鑄解毀傷等ヲ禁ス

通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其他總テ流通ノ用ヲ缺キ候處爲一切不相成候條
（貨幣門） （紙貨幣ノ部）貿易銀貨一般ニ通用セシム（通用貨幣ノ鑄解毀傷等ヲ禁ス）六三九

此旨布告候事

○舊貨幣交換代金下渡方(明治十一年九月三日 大藏省乙第四十二號)
 舊貨幣交換代金ノ備自今金銀貨幣ノ内ヲ以テ可相渡尤モ古金ハ其價格拾圓ニ付金貨八圓買
 易銀貳圓ヲ以下渡古銀ハ同ク貿易銀ヲ以可下渡候條古金銀交換申出候ハ、右ノ割合ヲ以テ
 交換方取計可申此旨相達候事

○贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則(明治九年四月十九日 第五十七號布告)

銀行又ハ爲換方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備人候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品
 取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ斷截
 シ速ニ其最寄(警察出張所)或ハ(屯所)或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳
 官廳關スル所ハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハ該時ハ必ス代理人ヲ出サシムルニ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會
 人ヲ取リ該之ヲ斷截シ速ニ遞送主ニ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤以正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ニ其斷截シタル正貨紙幣ヲ同
 種ノ品ト引換相渡シ紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヨリ引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正價定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面
 前ニ於テ其品ヲ封シ持主ニシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ニ差出スヘシ然ル時ハ
 該廳ニ於テ詳細吟味ノ上至ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモ
 ノハ直ニ持主ニ引換渡シシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ニ
 還付スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立テ等閑ニスル者等ハ相當ノ
 處罰ヲ爲スヘシ

○變造紙幣處分方(明治九年五月十八日 大藏省甲第十二號布告)

本年四月太政官第五十七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ
 其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓貳圓
 ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ
 貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ贋製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付
 該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ及ヒ描改ノ證ヲ所持人ニ明示シ其儘警察出
 張所等ニ差出同所ニ於テ右紙幣ノ原因其外疑問處分相濟候ハ、引揚切ニ取計「紙幣察」ニ
 相納候儀ト可相心得此旨布達候事

(禁令門)

(紙貨幣ノ部)

(紙幣交換規則)

(裏面彩紋略之)

●國造金銀貨幣斷等處分ノ儀ニ付福井始審裁判所檢事伺(十六年十月)

豫審公判檢事ノ搜查等ニ於テ實造金銀貨幣取扱規則ニ依リ裁斷ス可キ金銀貨幣ヲ發見シ法ノ沒收ニ係ラサル時ハ其旨ヲ以テ裁判所所在ノ警察署ニ引渡シ該貨幣ハ同署ノ處分ニ任セ可然哉

○指令 伺之通(明治十六年十月二十日)

○損紙幣交換規則(明治十七年四月八日)

明治十四年五月當省甲第七十五號布達損傷紙幣交換規則左ノ通改正候條右ニ照準シ引換方可取計候此旨告示候事

水火災或ハ鼠喰蟲喰等ヲ爲メ毀損セシモノヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取札シ左ノ箇條ニ照準交換スヘシ

第一條 小破或ハ二ツ切レ三ツ切レ等幾片ニ細斷スルトモ中央ノ數位(數位トハ各紙幣ノ額五十字以下之ニ全シ)全存シ大藏卿出納局長ノ印章記録局長ノ割印上下ノ番記號(四箇)マテ接續スルモノ又全部所々破損スルトモ中央ノ數位全存シ大藏卿出納局長ノ印章記録局長ノ割印ノ内壹箇上下番記號四箇所内二箇所(記號一箇所番記號一箇所又ハ番記號一箇所番記號一箇所)ニ箇所記號一箇所番記號一箇所)存在スルモノ又中央ノ數位半存シ雖モ各印章全存番記號二箇所ヲ認ムルモノハ全額ヲ以テ交換ニ付スヘシ

但全紙接續スルトモ左右ノ番記號同シカラサルモノ又ハ彩紋等不合他ノ紙幣ヲ以テ接續スルト認ムルモノハ交換ニ付セズ

第二條 縱又ハ横斜等半片ハ消滅シ残り半片ノ紙幣ハ中央數位半存シ大藏卿印章或ハ出納局長ノ印章記録局長割印ノ内壹箇上下番記號ノ内壹箇ヲ認ムルモノハ半額ヲ以テ交換ニ付スヘシ

第三條 大藏卿及ヒ其他ノ印章番記號トモ全存スルト雖モ中央ノ數位ヲ認メサルモノ中央ノ數位存在スルトモ各印章及ヒ番記號ヲ認メサルモノハ交換ニ付スヘカラス

○國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店ニ於テ取扱方(明治二十年二月十日大藏省乙第

九號府縣へ達)

國立銀行損傷紙幣交換方ノ儀ニ付テハ兼テ相違置候趣モ有之候處今般各國立銀行へ別紙ノ通相違候條自今交換不及候此旨相達候事

(別紙)

但本文ノ趣明治八年當省乙第七十四號達ニ準シ管下人民へ普ク諭達可致候事

國立銀行損傷紙幣交換ノ儀自今他店ノ發行紙幣ヲリトモ其所持主請求次第各國立銀行本支店ニ於テ無差支互ニ交換可取計此旨相達候事

(禁令四) (紙幣ノ部) (國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店ニ於テ取扱方) 六四三

但本文交換セシ他店ノ紙幣ハ適宜取纏メ其發行銀行へ相送り共代リ金並右遞送ニ屬スル費用ハ勿論更ニ手数料トシ交換金高千圓ニ付貳圓ツ、該銀行ヨリ償還可爲致就テハ交換請求人ヨリ別段手数料切實等一切受取候儀不相成候事

○紙幣漸次銀貨ニ交換ス(十八年六月六日 第十四號布告)

政府發行ノ紙幣ヲ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ 但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ共事務ヲ取扱ハシムヘシ 右奉 勅旨亦告候事

○鑑定ヲ誤リ正貨紙幣斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方(明治九年五月八日 大藏省第十四號)

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ記載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳へ引換ヲ乞ハ、該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ操替引換遣シ退テ右改人ヨリ差出セシ書面ハ現札添紙幣察へ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混線區別可致候此旨相達候事 但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾圓ヲ貳拾圓ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ廢換ノモノヲ付右ハ價札ヲ以テ處分可致候

○銀行紙幣贋造描改處分(十四年十一月五日 大藏省第十四號)

銀行紙幣贋造札描改札處分之儀ハ明治九年五月第五拾七號布告及ヒ同年五月當省甲第二十號布達同年五月當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改人ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)へ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改人ニ交付可爲致此旨相達候事

◎證券之部

○大藏省證券條例(明治十七年九月二十日 第二拾四號布告)

大藏省證券條例別紙之通制定ス

第一條 大藏省證券ハ出納上ニ時便用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂コシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別テ其仕拂期限ハ三ヶ月六月九月九月トス

(貨幣門)

(證券ノ部)

(大藏省證券條例)

(證券發行ノ事務)

但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受買賣スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ヘシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ

但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サルモノトス

但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損シトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ

但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ検査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキ者ニアラザレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失シトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有シトキノ手續ヲ詳細シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏省ハ其證券ヲ授受買賣引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セル證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スト保

證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○大藏省證券條例ニ據リ證券發行ノ事務(十九年八月三日)

(第二十六號)

明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ヘシム

○兌換銀行券條例(明治十七年五月二十六日)

(第八號布告)

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

(別紙)

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ

(貨幣門) (證券ノ部) (兌換銀行條例)

各種ニ就テ其發行高チ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナシ通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其

製造高チ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何

時ニテモ兌換スヘシ

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

第九號布告

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及

ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作り之ヲ大藏卿ニ報告

スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理

官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無

手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○爲換手形約束手形條例(明治十五年十二月十一日)

(第五號七號布告)
爲換手形約束手形條例別冊ノ通制定ス

(別冊)

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲換手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル

人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テ

ハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載

(貨幣門)

(證券ノ部) (爲換手形約束手形條例)

ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ルモノトス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十三條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得

第十四條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十五條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十六條 裏書人ハ振出人及ヒ自己前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人チシテ手形支拂ヲ保證セシムルヲ得

第十八條 振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印

(貨幣門) (證券ノ部) (爲替手形約束手形條例)

ス可シ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ク拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立テレムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求スヘシ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ請取ル時ハ手形ニ領収ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セス又ハ住所分明ナラス又ハ不在コトヲ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若シハ戶長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受タル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルコトヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若シハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書並ニ通知ノ費

(貨幣門)

(證券ノ部)

(爲替手形約束手形條例)

用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三年間償還ヲ要求スルヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人 手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾圓以上ニ限ル者トス

第三章 通期

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除ク外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條 第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第二節第四節及第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏替ヲ以テ所
有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

○爲替手形約束手形ニ關スル書式(明治十六年一月二十九日)
明治十五年^{十二月}第五十七號布告ヲ以テ爲替手形約束手形條例發行相成候ニ付テハ右手形ニ

關スル書式ハ總テ別冊離形ニ準據可致此旨告示候事
(別冊略之)

○新舊公債證書發行條例(明治八年五月二十五日)
明治六年^{三月}第百十五號及^{七月}同七年^{九月}第六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通改定候

條此旨布告候事東^三條
(別冊)

明治五年壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリシテ連債ヲ收テ政府ノ公債トシ之ヲ大
藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政府ニ於テ制
定シタル條々左ノ如シ

第一條 (新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス)
第二節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明

治元戊辰年太政更始以後明治四年辛未年七月廢藩迄及明治五年壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借
用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高五分ジテ第一第二第三第四第五トシ記書面ノ金高ヲ五百圓
三百圓二百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後ノ抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七
部分ニ別チ(五ノは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス
第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十年賦トシ其
年ノ拂方ニ當リシテ賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ
都合ニヨリ毎年度ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割

合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九
年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文總

テ其金類ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)
九年第五十號布告
加ス)

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂ヒ戻ニ當リテハ年四分ノ利息月割ヲ以テ右抽籤法行
ヒ月迄ノ分下下渡スヘシ

第五節 凡ソ公債元金并ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過クルキハ一切之ヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レトモ其受取リ難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス十二年第二十六號布告ヲ以テ第五節ヲ追加ス

第六條 新舊公債證書授受買賣手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書トモ全ク所持人ノ所有物トシテ他人(外國人ヲ除ク)ニ讓渡買賣入等部ヲ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留ノ公債證書并養子ノ戸主離縁復籍スル時其養家ニ屬スル公債證書ハ特約アルモノ、外總テ其遺留財産ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノトス十三年第三十號布告ルモノトスヲ以テ全項ヲ改正ス

但本文讓渡買賣ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離縁ニヨリ遺留セル證書

ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書替上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 證書ヲ授受及ヒ買賣スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ方(讓リ主買主ヲ云フ)ハ證書裏面ニ形ノ通(裏面離形)記名調印シテ別ニ其證書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙(受取者買人ヲ云フ)ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

但裁判所ニ於テ公買スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ニヨリ流質トナリタル證書ヲ有セル者此條例附錄第三圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ止裁判所ヨリ管廳ニ通知

書ヲ添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ十四年第四十一號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト届書トヲ受取リ其次第ヲ承リ正シ證書裏面ニ形ノ如ク(裏面離形)年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ差出セル者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ヘ渡シタル時甲乙トモ同管下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖ヨ管轄違ナレハ其證書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ十二年第二十六號布告ヲ以テ結尾百二字ヲ删除ス

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ來ル分ハ先買主ノ届出ヲ開置最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置キタル公債簿冊ニ其證書ノ金高租額記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日ヲ登記シ且證書ハ割印シテ下ケ渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル證書ヲ更ニ他人ニ(外國人ヲ除ク)讓リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 新舊公債證書ヲ管轄違ヒニテ讓渡買賣等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳ヘ其證書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債牒簿ニテ削除スヘシ此時證書ハ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳ヘ回報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳ヘ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人ヲ

(管轄門) (証券ノ部) (新舊公債證書授受條例)

托シテ送達スルモ妨ナシ且大藏省ハ一月分翌月五日迄ヨリ甲乙管應ヨリ互ニ届出ヘシ
年廿六號布告ヲ以テ
ナシノ下四十字ヲ除ス

但乙ノ管應ニテハ右ノ送達之キキ間ハ其證書賣買スルヲ差留置ヘシ

第八節 新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲乙地方管應ヨリ乙地方管應ヘ相違スル

備ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日
住居ノ地名等詳記シ乙管應ニ届出ヘシ管應ニテハ公債簿冊ニ登記シ證書ヘ割印シテ下渡
スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受買受ムトスル時ハ寄留地ノ管應ニ申

立管應ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ其應ヨリ拂渡スヘシ

但後日本籍ヘ復歸スルモノハ本人ヨリ即日管應ヘ届出ヘシ管應ニテハ復歸ノ地方應ヘ通

達方並本人届方等第八節ノ通ナルヘシ

第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣ヘ寄留スル時ハ年々元利拂及讓渡シ賣渡トモ寄

留地管應ノ主務トナスヨリ付寄留セムトスル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數トモ本管應

ヘ届出シ本管應ニテハ寄留地ノ管應ヘ送達シ寄留地ノ管應是ヲ受テ取扱ヲナス手續ハ

第七節第八節ノ照準スヘシ若シ其身他ヘ寄留スト雖モ都合ニ因テ後公債證書ハ本貫ヘ殘

置年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲナシ如キハ寄留地管應ニテ與ルコトナカルヘシ然レドモ

所持高ノ内都合ニ因リ幾分ヲ引分シ寄留先ヘ携帶スル時ハ其分ヲ本管應ヘ届出本管應ヨ

寄留地ノ管應ヘ送達シ手續ハ前條ニ照準スル通ナルヘシ尤本貫ヘ殘レタル證書ハ本管
應ノ所管勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ
其取扱ヲ爲シ妨ケナカルヘシ

但後日本籍ヘ復歸スル時ハ第九節但書ノ通ナルヘシ

第十一條 都テ讓渡又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得ヘシ然レトモ

前各節ノ手續ヲ了セザヤ間ハ其讓受主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦金及ヒ

元金ハ官簿ニ記載ノ債主ニオササレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ルモ亦

前ニ同シ
十二年第二十六號布告
十二年第二十六號改正

第十二節 毎年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息渡方並十二月一日ヨリ十五日迄ニ新公

債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月

十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ
第九年
第五十號布告ヲ以テ全編ヲ改正シ十一月第二十二號布告ヲ以テ其中
ヲ改正シ十二年第二十六號布告ヲ以テ(賣買)ノ下(届出)ノ三ノ字ヲ加フ

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其應主掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡

等ノ節ハ其官印(官印ナキハ實印)ヲ捺スヘシ
十二年第二十號布告
十二年第二十號改正

但記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ
十三年第三十號布告
十三年第三十號改正

第十四節 銀行及ヒ公認メタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合資ヲシテ所有主一個人

ニ限リ雖モトモ其内主長タル者又ハ證書管保ノ責ニ任スル者等一個人ノ姓名ヲ記シ肩書

(官幣門) (証券ノ部) (新舊公債證書發行條例)

ニ其實任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支配人町村組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書シ以テ一個人ノ私有ニ非ルヲ明ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引繼キ證書書替ニ及ハスト雖トモ代換ノ譯及ヒ其肩書姓名印形ヲ管廳ヘ届出ヘシ其屬ニ於テハ簿冊ヘ共譯并名面年號月日等ヲ登記シ置クヘシ然ル後代任ノ者更ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其肩書姓名實印ヲ以テ取引致スヘシ
年第二十六號布告ヲ以テ本項但書共追加シ十三年第三十號布告ヲ以テ其屬ニ於テハ)ノ下止三字ヲ改正ス
 但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ヘ證書書替ニ及ハス本節ニ照テ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置クヘシ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取扱致スヘシ

第七條 新舊公債證書引當物等ニナシタル處置ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコト有リトモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人ヘ下渡スヘシ尤モ本人關印ノ委任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ除ク外何人ヘナリトモ相渡スヘシ

第二節 若シ又買入流込トナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲナス事第六條第二節第三節第四節ノ通ナルヘシ

第八條 新舊公債證書共裏面並ニ引換等ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面

ヲ以テ其地方管廳ヘ申請證書ヲ繼足誤願モ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置證書ヘハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之ヲ所持人ニ渡スヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失等ノ處置ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失ワカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書種類番號記號枚數等ヲ掲ケ何月日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ届出管轄廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續(新聞紙ナキ地ハ町村高札場ニ揭示セシム)ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管内ヘ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書少元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サ、ルヘシ

第四節 七月月ヲ過テ其證書發見セサルハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作り其地方管廳ヘ通シ該管廳所持人ニ交付スヘシ尤モ公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ

(貨幣門) (證券ノ部) (新舊公債證書發行條例)

渡シタル次ノ拂期月ニ同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ
交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スルシ

第十條 新舊公債證書共燒失等ノ處置手續ヲ明ニス

第一節 水火災ニテ證書流焼失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管
廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流焼失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大
藏省ニ申立ヘシ

但其流焼失若シ判然タラザレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其中立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付ス

但證書流焼失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證
書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ニ申立書替證書ヲ得殘紙ヲ所持
人ニ下渡スルヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 新舊公債證書製造等ノ處分ヲ明ニス

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剥去リ又ハ切裂キ又ハ抹塗シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等
ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘殘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノト
ス

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ製造シ又ハ入テシテ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ製造スル
ヲ助ケ又ハ製造ヲ知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシ
メ又ハ變換セシモノヲ知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ版板紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ所持ス
ル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又
ハ之ヲ改正スルヲアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

右之通相定候事

證書(護賣)渡裏面雛形

(雛形中割印ハ朱刷)

一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿ニ渡候事實正也

明治 年 月 日

甲 某 印

(貨幣門)

(証券ノ部)

(新舊公債證書發行條例)

渡シタル次ノ拂期月ニ同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜離ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣澤ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スルシ

第十條 新舊公債證書共焼失等ノ處置手續ヲ明ニス

第一節 水火災ニテ證書流焼失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流焼失ノ次第ヲ推糺シ判然クシレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ニ申立ヘシ

但其流焼失若シ判然クシラレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其中立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但證書流焼失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分焼切レ又消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ニ申立書替證書ヲ得殘紙ヲ所持人ニ下渡スルヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 新舊公債證書假造等ノ處分ヲ明ニス

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ削去リ又ハ切裂キ又ハ抹塗シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘殘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ假造シ又ハ入チシテ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ假造スルヲ助ケ又ハ假造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ版板紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコトアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

右之通相定候事

證書(讓賣)渡裏面雛形

(雛形中割印ハ朱刷)

一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿ニ渡候事實正也
明治 年 月 日 甲 某 印

(貨幣門) (證券ノ部) (新舊公債證書發行條例) 六六七

第一圖 判印

何府下何大區何小區何村何番地
乙 某 殿
何府
公債掛
何 某 印
明治 年 月 日

六六六

乙某寄留人ナル時ハ左ノ通
本貫何府 華士族カ
何府 縣 平民カ
何府 下何大區何小區何町村何番地寄留
何所何番地居留
乙 某 殿
右之通タルヘシ尤施行濟ノ分ハ此限ニ非ス

朱 [管廳公債掛ノ檢印ヲ捺スヘシ]

判印及○並シテ施スモノ
ハ朱刷以下亦同シ

附 何人ノ死亡
何某失踪ニ付遺留物ヲシテ捕者ヘ引受候事實正也

第二圖 錄

朱一此證書
明治 年 月 日
何 某 印
右本文之通相違無之者也
何(府縣)
公債掛
何 某 印
明治 年 月 日

(豎三寸七分 横一寸八分) 朱 [管廳公債掛ノ檢印ヲ捺スヘシ] (十四年第四十一號) 布告ヲ以テ追加

(何某所持ノ處) (何ヶニ付公債ニ因テ拙者買受ケ候事實正也) (何裁判所ノ官流ヲ以テ流質ト相成拙者引受候事實正也)

一此證書

明治何年何月何日
何 某

本文之通相違無之者也
何(府縣)

公債掛
何等屬何某印

(貸附門) (證券ノ部) (新舊公債證券發行條例)

六六九

第三圖 附

○金札引換公債條例(明治十三年十月二十七日)
明治六年三月第百貳拾壹號布告金札引換公債證書發行條例并改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改
定候條此旨布告候事

別冊

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀
貨幣ヲ以テ支拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ三種トス

第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札
引換公債證書ニ交換スルヲ得ヘシ十六年第四拾八號布告
以テ本條ヲ停止ス

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置四ヶ年目ヨリ向拾二ヶ年間
政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至
然迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息日割(抽籤十五日以前ニ係レバ
前月迄ノ分)下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣并ニ紙幣ノ高ヲ記載
シタル交付願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ノ願書ヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大
藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國
債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領證ヲ交付スルノ各月十五日以前ニ
レハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其
債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達
スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛ノ
簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側ノ債主ノ姓名ヲ記入レ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ヘ渡
置キ外ル受領證ヲ引換スル證書ヲ交付スル時ハ本人ニ證書ヲ交付シ其受領證ヲ
但證書交付ノ後他管ニ移轉シ若シハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ毎

(貨幣門)

(證券ノ部)

(金札引換公債證書條例)

翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ屬出シタル公債引換無記名公債證書ノ受取ヲ記サレメ翌月五日迄ニ取繕メ明細表ヲ添テ大藏省國債局ニ送致スルシ

第十四條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ從前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要丞楯ノ文字ハ朱書ヲ以テ點覽スヘシ

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之ヲ他人(外國人ヲ除ク)ニ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其證書ヲ其地方管廳ニ差出シテ紙足紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル紙足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付綴印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サレメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄十月一日ヨリ十一月十五日迄證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以後交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ニヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年五月第九拾五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ箇條ニ準據スヘシ

○金札引換無記名公債證書條例(明治十六年十二月二十八日) 第四拾八號布告 此條例頒布後金札引換無記名公債證書條例左之通制定シ明治十三年十月第四拾七號布告金札引換公債條例第三條ヲ停止スルニテ其後發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フ事ノ所ス

此公債證書ヲ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス 第二條 此公債證書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシ

第三條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ額五圓五百圓百圓ノ三種トス 第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス 第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此證書ヲ引受クノコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行支店又ハ代理店ニ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス 第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還迄至ルニテ毎年五月十六日ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スル時ハ其元金償還ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

(貨幣門) (證券ノ部) (金札引換無記名公債證書條例)

還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月元ノ利子ヲ拂渡スヘシ
満期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月々テノ分チ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ヨリ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナ
レバ其下半月分ヨリ十六日以後ナレバ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時
期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店於テ利札ヲ切取り之ヲ引換ニ拂渡ス
ルヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテ授受買賣因テ其利子額ノ減
第十條 此公債ノ元金償還ノキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱
居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スル者拾名以上并大藏省國債配賦兩局以官員五名以上
立會ニテ抽籤ヲ執行シ其當籤證書號碼種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十二條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及
證書授受買賣ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ
金届出ニテ證書公債證書號碼ニ並同シ。即チ其利子額ノ減額ニ對シテ金高記號番號及
亡失ノ證書ヲ發見セバ其償還年限ヲ減額ニテ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該

證書ノ元金額ヲ其届出ハハ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ノ爲メ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ヲ亡失セシトキハ
知レテ其利子額ハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引
換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ

但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノコ
ラサレハ引換サレヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノ手續其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章
ヲ認メ難キモノハ其元金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過クルトキハ一切之
ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例
ヲ增補改正スルコトアルヘシ

○起業公債(明治十一年四月三十日)

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ンコスルダメ新ニ壹千貳
百五十拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ト供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿ヘ御委任相成候
條此旨布告候事

(貨幣門) (証券ノ部) (起業公債) (起業公債發行條例)

六七五

但詳細ノ儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○起業公債證書發行條例(明治十一年五月一日)
(大藏省甲部十三號布達)
今般内國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

(別冊) 此公債ハ明治十一年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要川ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債證書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五十拾萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三箇年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻ススヘシ而シ其利息ハ(第三條第二節ノ但書並ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ木文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ
但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日以後ニ係ルハ半箇月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシテ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書面ノ金高ハ五百圓百圓五拾圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス但本文ノ利札ハ毎半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取り引換ニ其金額ヲ得ベキモノトス

第二條 (公債證書授受賣買等ノヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ(第六條ニ掲グル記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サズ故ニ書換又ハ管應ノ捺印ヲ受クル等ノ手續無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルベシ

但買入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 (募債并ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 此公債ノ募集方并ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行并ニ三井銀行ヘ委任シ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及利息并ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フヘシ
第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシシ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ兩銀行等ヨリ廣告スヘシ

但第三割拂込ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ
年同省甲部二十三號布達ヲ以テ(月割)ノ下割註五十三字ノ内(モノトス)ノ下十三字ヲ別リ其他四十字ヲ第四節(月割)ノ下ニ移ス

(貨幣門) (證券ノ部) (起業公債證書發行條例)

第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假證券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込ニ至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付スヘシ

但公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先テ入金スル者ハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半箇月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ(同上(月割)ノ下)

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ニ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セザルベシ

第六節 出金未ダ皆濟ニ至ラズ此公債證書ヲ受取ザル以前ダリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授受買賣入書入ニスルハ(外國人ヲ除ク外)勝手スルベシ(尤モ授受買賣ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ買主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且ツ刷印スルモノトス)

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ本條第五節ノ通りタルベシ
第七節 若シ申込ノ出金高募集スベキ見込高ヨリ超過スルハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込

高割付テテ等停減割額ノ其手付金ヲ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スベシ
尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルノモアルヘシ

第四節 (抽籤ノ手續略ヲ示ス)

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シテ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債證書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ニテ抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スベキ證書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ述ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スベシ

第五節 (證書ノ毀損紛失盜難流焼失等ノ心得方ヲ示ス) (同上(取替)ノ下)

第一節 此公債證書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ證書タルヲ保認スベキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スヘシ尤モ過失ニテ此公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ズ判然存在シ真正ノ證書ニ相違ナシト見認メ分ハ之ガ引換ヲ爲スヘシ
但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フベシ
第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流焼失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置

(貨幣門) (證券ノ部) (起業公債證書發行條例)

償却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違無キニ於テハ該證書ニ對シ積リタル利息元金トモ一同ニ之ヲ拂渡スヘシ

第三節 前節届出シ後該證書顯出シ而シテ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラズトモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サズシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スヲ得ヘシ

但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キキハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコアルヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半ヶ月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルヘシ

第六節 出金未ダ皆濟ニ至ラス此公債證書ヲ受取ラサル以前タリハ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授受買賣入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルニ尤モ授受買賣ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ買主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)

ノ姓名住所ト記載シ且ツ調印スルモノトス

但所讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルキハ本條第五節ノ通りタルヘシ

第六條 (起名公債證書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス)
第一節 此公債證書ハ授受買賣等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレド所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名證書ト爲スヲ得ベシ其變改ノ手續並ニ規則左ノ如シ
第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ス又證書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取續メ)請願人ノ姓名住所並ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ニ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取り之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受シベシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニテハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ捺印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スベシ

(貨幣門) (證券ノ部) (起業公債證書發行條例)

但一旦無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記
號並號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書
ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ證書并ニ記名紙ヲ受取り成規ノ如ク再ヒ
之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之
ヲ大藏省ヨリ受取り置クモ適宜ナルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受買賣シ或ハ引當物ニ
爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流焼失等ノ虞ハ明治八年(五月)太政官第九十號布告改正新舊公債
證書發行條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債證書ニ適用
スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並不用ノ處々左ノ如シ

但元利渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債證書共」並ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此
記名公債證書」ト改ム○同第六條第一節但書ノ(其都度大藏省ヘ届出ヘシ)ヲ(置クヘシ)ニ
改ム○同條第二節ニ(證書裏面ヘ形ノ通「裏面雛形」)及ヒ同上第三節ノ(證書裏面ヘ形ノ如
ク「裏面雛形」)ハ都テ(記名紙ヘ主ニ附スル雛形ノ通リ)ト改ム○同條第三節ノ(大藏省ヘハ
云々)ノ十五字ヲ(置クヘシ)ニ改ム○同條第四節ノ但書ヲ削除ス○同條第五節並ニ第七節
八節ノ(證書ヘ割印)ハ都テ(記名紙ヘ割印)ニ改ム○同條第七節ノ(且大藏省ヘハ一月分翌
月五日迄ニ云々)ノ二十七字ヲ不用○同條第九節ノ(就テハ年々元利云々)ノ十八字ヲ(尤モ

年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱)トス○同條第十節ノ(年々元利拂及)ノ六字並ニ(年々元利
受取或ハ)ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス同條同節中ノ(前條)ヲ(第七節)
ニ改ム○同第七條第一節ノ(所持人ヘ下渡スヘシ云々)ノ四十七字ヲ(何人タリトモ其持參
人ヘ(外國人ヲ除クノ外)相渡スヘシ)ニ改ム○同第八條割註ノ二十一字ヲ(此公債證書記名
紙綴足ノ手續ヲ明ニス)ニ改ム○同條第一節ノ(裏面記名ノ場所ヲ(記名紙ノ餘餘)ニ改メ(證
書ノ綴足ヲ(記名紙ノ綴足)ニ改ム○同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス○同條第二節ノ(地方
官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々)ノ六十二字ヲ削除ス○同條第三節ノ(公布)ヲ(布達)ニ改ム○
同條第四節ノ(元利)ヲ(利金)ニ改ム

第七條 (證書變造等ノ處分ヲ示ス)

第一節 此公債證書(無記名記名トモ)ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニ
スル等ノ事ヲ爲スヘカラス若犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ
第二節 此證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ贗造セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知り
テ通用シ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知り
テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板紙紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又
ハ之ヲ改正スヘシ

(貨幣門)

(證券ノ部)

(起算公債證書記名ノ分元金拂渡方手續)

第二節

右増補改正等アルキハ述ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

(印割)

本文證書何大區何小區何町何某へ相渡候者也

〔何府〕公債掛

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

〔何〕

〔某〕印

一此證書是迄拙者所持之處貴殿へ譲渡候事眞正也

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

〔甲〕何某〔印〕

〔何府〕下何大區何小區

何町何番地〔何〕

〔乙〕何某〔殿〕

本文之通相違無之候也

〔何府〕公債掛

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

〔何〕

〔某〕印

○起業公債證書記名ノ分元金拂渡方手續 (明治十三年十一月十一日
大藏省甲第百二十七號布達)

起業公債證書記名ノ分元金當リノ節元金拂渡方左ノ通手續相定候條此旨布達候事
一起業公債記名證書發當リノ分ハ其所有主ヨリ其〔檢印〕ヲ受タル〔管轄廳〕へ其證書ヲ差出シ
其應ニ於テハ其記名證書所有主タルトテ保認シテ當該ノ旨ヲ帳簿へ記入シ別ニ左ニ示ス
離形ノ港書ヲ製シ其所有主ニ下付スヘシ
一所有主ハ管轄廳ノ添書ト證書ト共ニ最寄該公債取扱店へ差出シ取扱店ハ其添書ヲ看認メ
而シテ無記名證書同様ノ手續ヲ以テ渡方ヲ爲スヘシ
(添書離形略之)

○中山道鐵道公債證書條例 (明治十六年十二月二十八日
第四拾七號布告)

中山道鐵道公債證書條例左ノ通制定ス

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマテ中

山道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經

營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス (十七年第七號布告ヲ以テ〔沿ヒ〕
下及ヒ以下二十一ノ字ヲ加フ)

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコ

トヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ書記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

(貨幣門)

(證券ノ部) (中山道鐵道公債證書條例)

第五條 此公債證書引受ノ申込大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルキハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高チ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高チ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分チ拂渡スモノトス

此公債ノ元金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取之ト引換ニ拂渡ヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受買賣スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京橫濱

居住人ニシテ此公債證書ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記錄兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受買賣ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見レタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損ヒシトキハ日本銀行支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ交換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ

但其證書面金高記號番號及ヒ大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ証認シ得ヘキモノニアラサレハ引換ケルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章

(貨幣門) (証券ノ部) (整理公債條例)

ヲ認メ難キモノハ其元利トモ償還方總テ亡失證書ト同一ナルヘシ
 第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス共拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ
 第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ

○整理公債條例(十九年十月十六日勅令第六十六號)

- 第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス
- 第二條 整理公債ハ一億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス
- 第三條 整理公債利子ノ割合ハ一个年百分ノ五トス
- 第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓一千圓五百圓一百圓五十圓ノ五種トス
- 但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得
- 第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募中込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

- 第七條 整理公債應募高毎期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高キ割合減少スルモノトス
- 第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一ケ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ前項拂込期日後三ヶ月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證書ヲ交付セズ且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス
- 第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五ケ年据置其翌年ヨリ向五十ケ年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス
- 但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三十拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得
- 抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス
- 第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス
- 第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支

(貨幣門) (証券ノ部) (整理公債條例)

拂七月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月々
ヲ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本支店
又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇
年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀
損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合せ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間
ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戶長ノ與書ヲ受ケ證書ヲ
添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方運署ノ請求書ヲ添ヘ日本銀行本支店
又ハ代理店ニ差山シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ
證スル戶長ノ與書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルト
キハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有者權他ニ移轉シタルモ其引受人
ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添ヘ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若シハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人
ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若シハ代利札ノ交付又
ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムル
トキハ直ニ代證書若シハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ届出
ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ
但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ之カ支
拂ヲ見合せヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルト
キハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有
權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀
行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

(貨幣門)

(証券ノ部)

(整理公債條例)

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セザルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノ起訴ノ權アルモノトス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑿別シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ鑿別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキハ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本人ヨリ納メレムルコトヲ得

第二十九條 第二十四條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ滿足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○整理公債取扱順序(十九年十月十九日 大藏省令第三十號)

第一章 募集及證書發行

第一條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル日限マテニ應募ノ金額并ニ價格ヲ取扱店(日本銀行本支店又ハ代理店)ニ申込ヘシ

取扱店ニ申出ヘシ

第二條 整理公債ノ應募者ハ申込ノトキ大藏大臣ノ指定スル割合ヲ以テ保證金ヲ拂込ムヘキモノトス 但取扱店ハ本文保證金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第三條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル期中ニ保證金ヲ扣除シタル跡金ノ拂込ヲナスヘキモノトス 但取扱店ハ本文拂込金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第四條 保證金及拂込金額收證書ヲ受取り未ダ全額ノ拂込ヲ了ラスシテ本人死亡スルトキハ相続人ヨリ該證書ノ繼承及跡金拂込ノ旨ヲ書面ニ認メ取扱店ニ差出スヘシ

(貨幣用)

(證券ノ部) (整理公債取扱順序)

第五條 保證金及拂込金領收證書ハ各應募者ニ於テ其申込ヲナシタル取扱店ヘ抵當ニ差入ル、ノ外一切之ヲ授受買賣スルヲ得ス

第六條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ大藏大臣其種類ヲ定メ日本銀行本店ヘ交付スルモノトス

第七條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ取扱店ニ於テ保證金領收證書及第一期以下ノ拂込金領收證書ト引換ニ公付スヘシ但最後ノ拂込金ニ對シテハ別ニ領收證書ヲ公付セス現金及他ノ領收證書ト共ニ本證書ト引換ニルコトヲ得

第八條 整理公債條例第七條ニ據リ應募額ヲ減少スルトキハ保證金ヲ還付シ之ニ對スル利子ハ日割ヲ以テ支拂フモノトス

第九條 整理公債募集ノ時應募者ハ現金ノ代リトシテ從前發行六分以上利付ノ公債證書ヲ以テ申込ヲナスコトヲ得但本文ノ場合ニテハ最後ノ拂込ヲ除キ其割合ハ大藏大臣ノ指定スル金額ニ超過スルモ妨ナシ

前項公債證書ノ價格ハ新ニ交付スル整理公債證書ト共ニ額面ノ金額ヲ以テ計算シ其種類七分利付金銀公債六分利付ハ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定メテ告示スルモノトス

第十條 前條ニ據リ從前發行ノ公債證書ヲ以テ申込ノ高ハ需要額ニ超過スルモ之ヲ減少セス整理公債證書發行ノ日マテ現拂込ヲナシタル從前發行公債證書ニ對スル利子ヲ交付スヘキニ由リ保證金並ニ第一期以下ノ拂込金ニ相當スル利子ヲ付セサルモノトス

第十一條 整理公債證書發行ノ後整理公債條例第三十條ニ據リ從前發行六分以上利付ノ公債償還元金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノアルトキハ其旨ヲ取扱店ヘ申出ヘシ

但此場合ニ於テ交付スヘキ整理公債證書ハ額面ノ金額ヲ以テ計算スルモノトス

第十二條 整理公債ノ保證金領收證書若シハ拂込金領收證書ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ取扱店ニ證明シ更ニ領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第二章 利子支拂

第十三條 整理公債ノ利子支拂期日ハ毎年六月一日ヨリ同二十五日マテ十二月一日ヨリ同二十五日マテトス

第十四條 整理公債ノ利金ハ各取扱店ニ於テ利札引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ利札ハ記名證印ヲナシタル取扱店ニ限り記名者ニ之ヲ支拂フ者トス

第十五條 整理公債證書ノ發行及當籤又ハ満期償還ノ時拂渡スヘキ利子ニシテ利札ノ金額ニ滿タサルモノハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ徴シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第十六條 整理公債條例第二十條第二十五條ニ據リ利子ヲ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ徴シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第三章 元金償還

(貨幣門) (證券ノ部) (整理公債取扱順序)

第十七條 整理公債條例第九條但書ニ據リ該公債償還金額ノ告示アルトキハ日本銀行本店ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ抽籤ノ期日ヲ定メ官報及五種以上ノ新聞紙ヲ以テ三日以上之ヲ廣告スヘシ

第十八條 前條ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ速ニ前條同様ノ手續ヲ以テ當籤證書ノ金額種類記號番號枚數等ヲ廣告スヘシ
各地取扱店ニ於テハ前項ノ廣告ニ據リ更ニ適宜ノ方法ヲ以テ其地方限リ同様ノ廣告ヲナスヘシ

第十九條 整理公債元金支拂ノ期日ハ各取扱店ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日間ヲ過ルヲ得ス

第二十條 整理公債ノ元金ハ各取扱店ニ於テ證書引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ元金ハ記名證印ヲナシタル取扱店ニ限リ記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第二十一條 整理公債證書ノ當籤後紛失ノ届出アルトキ無記名證書ハ整理公債條例等二十五條ニ準シ其届出ヨリ滿六箇年記名證書ハ順序第十九條ノ支拂期日後三十日ヲ經過シ尙發見セザレハ元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徴シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第二十二條 整理公債條例第二十條ニ該當スル證書ニシテ當籤ニ係ルモノ及當籤後同様ニ該當スルモノハ代理書ヲ交付セス取扱店ニ於テ保證人連署ノ請求書及領收證書ヲ徴シ元

利金ヲ拂渡スヘシ

第四章 證書取扱

第二十三條 整理公債條例第二十條第二十四條第二十五條ニ據リ代證書代利札ノ交付ヲ請求スルモノハ其旨ヲ取扱店ニ申出ツヘシ取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徴シ之ヲ引換ニ代證書代利札ヲ交付スルモノトス

條例第二十條ノ場合ニ於テ消滅ノ證據明確ナラサルトキハ記名證書ハ條例第二十四條無記名證書ハ條例第二十五條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十四條 整理公債證書ノ消滅紛失又ハ毀損汚染ニ由リ交付スヘキ代證書ニハ前證書ニ當時附屬セシ利札ヲ附シ其種類ハ前證書ノ種類ト異ナルコトアルヘシ

第二十五條 記名證書ヲ交付スルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ證印シ記名簿ト割印スヘシ

第二十六條 無記名證書ヲ記名ニ變換スルノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ本證書ニ對シテ預リ證書ヲ交付シ本店ハ(支店代理店ハ本店ヲ經由シテ)證書ニ記名印ノ捺押ヲ大藏省ヘ請求シ證書並ニ記名紙ヲ受取リタルトキハ先キニ交付シタル預リ證書ト引換ニ本證書ヲ交付スヘシ

第二十七條 整理公債條例第十七條第十八條及第十九條ニ據リ記名證書ノ名前書換ノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ證印シ記名簿ニ割印シテ證書ヲ交付スヘシ

第二十八條 整理公債記名證書ノ所有者其取扱店ヲ變換セントスルトキハ其旨ヲ甲店ニ申

(貨幣門) (證券ノ部) (整理公債取扱順序)

出テ其證書ヲ乙店ニ差出シ記名簿へ登録ヲ請フヘシ

第二十九條 甲(讓渡又ハ賣渡人)乙(讓受又ハ買受人)取扱店ヲ異ニスルモノニシテ整理公債記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタルトキハ順序第二十七條及第二十八條ノ手續ヲナスヘシ

第三十條 記名證書所有者ハ戶長ノ保證ヲ經テ其印鑑ヲ取扱店ニ差出スヘシ
但改印改姓名ヲナシタルトキモ亦本條ノ手續ヲナスモノトス

第三十一條 整理公債條例第二十八條ニ掲クル手数料ノ高ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○整理公債證書ノ交付申込方(明治十九年十一月十一日 大藏省令第三十三號)

本月償還スル七分利付金祿公債元金三百萬圓並ニ六分利付同公債元金貳萬圓ニ對スル現金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノニハ整理公債假證書ヲ交付スルモノトシ其取扱左ノ通相定ム

一 假證書ノ交付ヲ望ムモノハ東京府下ハ大藏省ヨリ其他ハ所轄廳ヨリ當該證書記番號告示ノ日ヨリ十日以内ニ各自元利金ノ交付ヲ受クヘキ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ 但本文ノ期日內ニ申込ヲナサルモノハ總テ現金ヲ以テ拂渡スモノトス

一 假證書ノ利子ハ來ル十二月分ヨリ付スルモノトス
但本年十二月分ノ利子ハ假證書交付ト同時ニ拂渡スモノトス

一 假證書ハ抵當ニ差入ル、ノ外授受賣買スルヲ得サルモノトス

一 假證書ハ來ル明治二十年三月十五日ヨリ同三十一日マテニ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ本證書ト交換スヘキモノトス

但シ記名證書ト交換セントスルモノハ第一項申込ト同時ニ其旨ヲ申出ヘシ

一 假證書ハ前項ノ交換期限後一ヶ月ヲ過クルトキハ無効トス

●整理公債取扱方ノ件(滋賀縣令 明治十九年十一月九日)

今般貴省令第三十號整理公債取扱順序第九條ニヨリ從前發行記名公債證書ヲ以テ應募シタルモノ該證書ヲ日本銀行へ拂込ニ方リ記名欄內記署名及捺印等ノ手續ニハ及ハサルヤ然レハ所管廳債主簿削除ノ儀ハ最後滿額拂込ノ上日本銀行又ハ國債局ノ通知ニ由リ取計フヘキヤ

○指令(同ノ趣引換濟ノ證書ハ其種類並記號等告示ニ掲載セシル所管證書ハ債主簿ヨリ削除スヘキ儀ト心得ヘシ)

○海軍公債證書條例(十九年六月十五日布 告勅令第四十七號)

朕海軍公債證書條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ一千七百萬圓ヲ限リ三ヶ年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス

第二條 此公債ノ利子ハ一ヶ年百分ノ五トス

第三條 此公債ノ元金ノ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向三十ヶ年間ニ抽籤ヲ以

(貨幣門) (證券ノ部) (海軍公債證書條例)

テ之ヲ償還ス

第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トシ其株式ハ大藏大臣之ヲ定ム (明治廿年二月二十
八日勅令ニテ改正)

第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一日ニ拂渡スモノトス

第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス

但此公債證書額面拾万圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得

第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル (明治

二月二十八日)
勅令ニテ改正)

○海軍公債證書發行手續 (十九年六月十六日大)

本年六月十二日勅令第四拾七號海軍公債證書條例ニ據リ額面五百万圓ノ證書ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

第一條 發行スヘキ證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スルモノトス

第二條 證書發行價格ハ額面金百圓ニ付金百圓トス

第三條 證書ノ引受ヲ望ムモノハ本年七月十日マテニ其引受クヘキ證書ノ金高及ヒ價格並ニ其住所姓名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込ムヘシ

但代理店ノ名稱及ヒ場所ハ日本銀行ヨリ廣告セシム

第四條 證書引受ノモンハ證書額面高百圓ニ付金十圓宛保証金トシテ其申込ムヘキ銀行店ヘ拂込ムヘシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條保証金ノ拂込アルトキハ領收證書ヲ交付スヘシ但此證書ハ賣買スルヲ得ス

第六條 大藏省ニ於テハ本年八月十日マテニ各申込人ヘ渡スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保証金ヲ引去リタル跡金ノ第一回ハ來

九月十五日ヨリ三十日マテ第二回ハ十一月十五日ヨリ三十日マテニ半額宛チ拂込ムヘシ

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルトキハ假證書ヲ作り保証金受取證書及ヒ現金ヲ引換ニ之ヲ渡スヘシ但假證書ハ官府及ヒ日本銀行ヘ抵當ニ差入ル、チ得ヘシト雖トモ各自ニ賣買スルヲ得ス

第八條 本證書ハ廻テ日本銀行ヨリ假證書ト引換ニ各引受申込人ヘ交付スルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ヲ期日マテニ其中込店ヘ出金セサルトキハ第四條ノ保証金及ヒ第 (貨幣門) (證券ノ部) (海軍公債證書發行手續)

一回拂込金ハ當人ノ損失ニ歸セシメ返付セサルモノトス

第十條 保證金受取證書又ハ假證書ヲ亡失シタルトキハ其證書ノ番記號及ヒ所持人ノ住所姓名等ヲ記シ其申込店ヘ速ニ報告スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ本人ニ就キ保證金受取證書又ハ假證書亡失ノ手續ヲ證明セシメ且二人以上ノ證印アル證書ヲ以テ其事由ヲ保證セシメテ代リ證書ヲ渡シ舊證書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ廣告スヘシ

第十二條 保證金及ヒ拂込金高ニ對スル利子ハ一箇年百分ノ五ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十三條 條例第六條ニ據リ超過額減却ニ付差戻スヘキ保證金ニハ利子ヲ附セサルモノトス
第十四條 保證金及ヒ跡金ノ利子公債證書ニ附屬ノ利札額(半箇年分)ニ滿タサル利金ハ本證書交付ノ節拂渡スモノトス

○諸記名公債ノ元利賦金拂渡方(十九年七月八日大藏省令第二十四號)

北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ儀來十一月一日ヨリ總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ之ヲ取扱ハシム但其代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ

○諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ歸シタル證書取扱方(十九年一月九日大藏省令第二號府縣ヘ送)

諸公債名證書ノ元金其條例ニ定メアル拂渡期限ヲ經過シ受取方申出テス所有主ノ損失ニ歸シタル證書ハ當省ニ於テ該證書ノ無効タルヘキ旨ヲ告示スヘキニ付右ノ證書コレアルハ公債簿冊ニ據リ該證書ノ種類金高記號番號等其年十二月末日ノ現狀ヲ以テ取調翌年一月三十一日限リ其地發還當省ヘ届出ヘシ
右相達候事

○諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序(十九年七月八日大藏省訓令第三十號)

諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序左ノ通相定ム
第一條 管廳ハ諸記名公債利賦金支拂期節ニ臨ミ其支拂期前月一日(沖繩縣ハ前々月一日)ノ越高即其日ノ所管高表ヲ左ノ第一號書式ノ如ク取調日本銀行本店ヘ又債主一人毎ニ其支拂ヘキ利賦札ノ金高ヲ左ノ第二號書式ノ如ク取調左ノ期日迄ニ其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

一新公債 毎年五月十五日
一舊公債 毎年十一月十五日

(貨幣門) (證券ノ部) (諸記名公債ノ元利賦金支拂方外三件)

一金札引換公債

毎年四月十五日
毎年十月十五日

一金銀公債

第二條 諸記名公債當籤又ハ滿期償還ノトキ其償還スヘキ合金高チ左ノ第三號書式ノ如ク取調日本銀行本店又其債主ノ姓名證書ノ金高チ左ノ第四號書式ノ如ク取調其支拂チ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

第三條 來ル十一月一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金チ請求スルセノアルトキハ第一條第二條ニ據リ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

第四條 諸記名公債證書ノ所有者チシテ來ル十月十五日迄ニ其所有證書取扱店チ指定セシメ届出サシムヘシ又其姓名住所印鑑チ戶長(戶長ナキハトキハ其區區長)ノ保證チ得テ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ差出サシムヘシ但姓名代替リ改印等ノトキ并ニ新ニ公債チ讓受買入タルモノモ本文同様其印鑑チ差出サシムヘシ

第五條 管應ニ於テハ前條届出ニ依リ其取扱店毎ニ帳簿チ設クル乎又ハ總店チ一帳簿トスルモ適宜タルヘシ

第六條 日本銀行代理店ハ一管應下便宜ノ場所ニ之チ定メ同行ヨリ廣告セシムヘシ
(書式略之)

○諸公債證書亡失

○亡失ノ諸公債證書發見ノ節復手ノ手續及該證書引上處分方(十四年十二月十五日大藏省令第五十號府縣ヘ達)

諸公債證書ノ内盜難紛失等届出當省ノ布達チ經クル證書他ノ管轄内ニ於テ發見當省ヘ届出候節記名證書ハ所轄廳(無記名ノ分ハ最前届出ノ廳)ヘ直ニ右發見ノ次第明細ニ通知シ該證書チシテ記名者(無記名證書ハ所有者)ニ復手ノ手續可取計儀ト可相心得此旨相達候事但記名證書ハ成規ノ七ヶ月ヲ經過シ代リ證書チ記名者ヘ交付後ニ發見ノ分ハ直ニ警察官ヘ通告シ他管轄ノ証書ナレハ該證書引上ノ處分ニ可及儀ト可相心得候事

○公債證書亡失ニ關スル取扱手續ヲ定ム(十七年四月二十二日大藏省令第二十三號府縣ヘ達)

凡公債證書亡失ニ關スル告示ハ急速ヲ要スルモノニ付本年四月第四十八號告示ニ據リ亡失ノ届出アル中其取扱手續左ノ通之チ定ム

公債證書亡失ニ關スル取扱手續

第一條 他管廳所轄ノ證書亡失ノ届出アルキハ本管廳所轄ノ證書同一ノ取扱チ以テ該届出チ受理シ其旨速ニ管内ヘ告示シ詳細書チ以テ同時ニ大藏省ヘ届出且證書所轄廳ヘ通知ス

第二條 前條ノ場合ニ在リテ證書所轄廳ヨリ亡失地ノ管廳ヘ證書ノ送達書已ニ到達シアルハ所持人ノ届書チ該送達書ニ照シ第一條ノ手續チ爲スヘシ

(貨幣門) (證券ノ部) (諸公債證書亡失)

第三條 證書所轉應ノ送達書未ク亡失地ノ管應へ到達セスシテ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キハ届出人ヨリ實際取引授受ノ證據物或ハ手記等ノ如キ書類ヲ提出セシメ左ニ掲載スル各項ニ據リテ篤ト取引シ相違ナキモノト認定レ得ル證憑アルモノハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

一 證書ノ所轉應

二 證書ノ種類記號番號金高枚數

三 前記名者ノ氏名族籍住所

四 讓渡賣渡等ニ關スル取引授受ノ證據物若シクハ證據物無之トキハ其年月日並授受取引ノ場所及ヒ原山

五 利賦札截斷現金交換濟之分何年何月渡リ迄ノ分界

第四條 證書所轉應へ往復ヒサレハ證書ノ種類記號番號金高枚數及ヒ記名等證明シ難キトキハ直ニ證書所轉應へ照會シ確報ヲ得テ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 無記名公債證書亡失シタルトモ亦第一條ノ如ク管内へ告示ヲ爲シ大藏省へ届出へ

右相違候事

○中山道鐵道公債ヲ東海道鐵道工事ニ使用ス

中山道鐵道敷設ヲ廢シ工事ヲ東海道ニ起シ中山道鐵道敷設ノ爲メニ募集ノ公債殘額ハ東海道鐵道工事ニ使用ス(十九年七月十九日 閣令第二十四號)

中山道鐵道工事既ニ前後數里ノ間竣功ヲ告ケ漸ク其中部ニ着手セントスルニ當リ之カ實測ヲ經ルニ其地形タル險峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレハ管ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス其工費ノ如キモ自ラ多キヲ加ヘ隨テ竣功ノ期亦太々遲速ノ差アルヲ發見シタル旨別紙甲乙號ノ通鐵道局長官ヨリ具狀シタルヲ以テ今般中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決定ス依テ明治十六年十二月第四十七號布告ノ中山道鐵道敷設ノ爲メ募集シタル公債ノ現在殘額ハ轉シテ之ヲ東海道鐵道工事ニ使用スヘシ(別紙ヲ略ス)

◎預金貸金之部

○預金規則(明治十八年五月三十日 閣令第十三號布告)

第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム

第一 驛遞局貯金

第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三 社寺教會會社其他人民ノ共用ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ

第二條 預金取扱手續ハ大藏卿之ヲ定ム

第三條 預金利子割合ハ大藏卿之ヲ定ム

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (預金規則)

- 第四條 預金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 大藏卿ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第八條 預金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルコト及ハズ

○社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續(明治十八年六月八日 大藏省第八十八號告示)

本年五月第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續左ノ通相定

- 但施行日限及利子割合ハ追テ新聞紙ヲ以テ廣告ス
- 第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所(稅關國庫金取)ニ於テ取扱フモントス
- 第二條 預ケ金ヲ分テテ通常定期ノ二種トス
- 第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラス拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月迄トス(明治二十年十一月二十六日 百六十一號但書ヲ追加ス)但金貨ニ限り金額十圓以上ヲ定期預ケ金トシ同類ヲ以テ拂戻シテ得ルモノトス

- 第四條 通常預ケ金ヲ始メテ預ケ入ルルハ申込書(第一式)及印鑑二枚ヲ其預リ所(東京ハ預方ハ國庫金取扱所ニ差出スヘシ 地方以下同)
 - 第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取り預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受クヘシ
 - 第六條 預金局ハ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナスルハ請求書(第二式)ニ通帳ヲ添ヘ預金局ニ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ
 - 第七條 各地國庫金取扱所ニ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナスルハ請求書(第二式)ヲ其取扱所ニ送テ預金局ニ差出スヘシ
 - 第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求書ヲ受ケタルルハ拂戻證書(第三式)ヲ其請求人ニ送達スヘシ請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ
 - 第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ若シ期日ヲ失スルルハ取扱所ニ經テ更ニ預金局ニ其證書ノ書替ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限コトラス
- 百里未滿 二十日
東京ヨリ 二百里未滿 三十日
二百里以外 四十日
- 第十條 通常預ケ金ノ全額ヲ拂戻スルハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スルルハ預リ所ニ於(貨幣門) (預金貸金ノ部) (預金取扱手續) 七〇九

ヲ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ印主務者ノ調印ヲナシ之ヲ返付スヘシ
第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ付セズ但預リ所ヘ預
ケ入タル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月東京ハ出納局仕拂切ヲ以符ヲ交付シタル月
ヲ拂戻シ月トス

第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分テ之ヲ其元金ニ組入ル
ヘシ

第十三條 預ケ主ハ毎年三月九日ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利子ノ記入ヲ受クヘ
シ

第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預ケ金ノ全額ヲ拂戻スルニアツサレハ之ヲ
受取ルヲ得ス

第十五條 一ノ預リ所ヨリ請取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入レ拂戻ヲナスコトヲ
得ス

第十六條 預金通帳ハ預ケ金受取ノ證トス

第十七條 定期預金ヲナスルハ申込書(第四式)及印鑑ニ枚ヲ預リ所ニ差出シ其金員ヲ預ケ入
レ定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ

第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルルハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額受取ノ記入ヲナシ
記名調印ノ上之ト引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ

第十九條 定期預ケ金ヲ引續キ預ケ入ルルハ更ニ期限等ヲ認メタル申込書ヲ左ノ日割ニ據
リ其預リ所ニ差出シ置キ満期ニ至リ新舊證書ノ引替ヲナスヘシ

百里未満ハ満期ヨリ三十日前

東京ヨリ 二百里未満ハ満期ヨリ四十日前

二百里以外ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ満期當日迄日歩割ヲ以テ計算ス
ルモノトス

第二十一條 金貨ヲ預ケ入同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ト雖モ利子ハ有合ノ通貨ヲ以テ支
拂フ(明治二十一年十一月二
十六日第百六十一號)

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第二十三條 預ケ金ハ直ニ預金局ニ預ケ入ルルハ出納局ヘ現金ヲ納付シ全局ノ領收證書ヲ
以テ預ケ入ルモノトシ又其拂戻ヲナスルハ預金局ヨリ出納局仕拂切符ヲ以テ拂渡スモノ
トス

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預金ハ其報告ニ依リ預金局ノ帳簿ニ登記
シ全局ヨリ帳記簿ノ通知書ヲ其預ケ主ヘ送付スヘシ

第二十五條 國庫金取扱所ヘ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通知書到達セサルハ
ハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達セシモ金員年月日ニ相違アルハ到達ノ

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (預金取扱手續)

翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認メタル通知書ヲ預金局ヘ發送スヘシ

百里未滿 二十日

東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セズ

第二十七條 預ケ申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺教會々社ニアリテハ

其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又二人以上ノ共同ニ係ルモノハ其總

代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做シ又共同ニ

係ル預ケ金ハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做スヘシ

第二十九節 社寺教會々社並其擔當者及共有預ケ金ノ總代人並加印者氏名變換又ハ轉任セ

シテハ其屆書ヲ預リ所ニ差出スヘシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルキハ後任者ノ印鑑二枚ヲ添ヘ連署ノ

屆書ヲ預リ所ヘ差出スヘシ

但前任者連署シ能ハサルキハ贖人ヲ立ツヘシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシキ或ハ汚染毀傷シテ文字印

章判明ナラザルキハ其事由ヲ詳記セシ屆書ヲ預リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナスヘシ但通

帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ爾後發見セシ

キハ之ヲ預リ所ヘ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金證書ハ大藏省官員ヨリ検査照合等ヲ要スルコトアルハ

但該官員臨檢ヲナスキハ其證據書ヲ携帶スルモノトス

(第一書式)用紙美濃紙

通常預ケ金申込書

何神社

何寺

何教會何々金預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

何會社

何々共有

何

何

何

何

何

明治何年何月何日 社寺教會々社ナルキハ此例ニ倣フヘシ

共有預ケ金ナルキハ此例ニ倣フヘシ

預金局長

官 氏 名 殿

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
何神社(何寺)(何教會)(何會社)印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
擔當者氏 名 印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
共有金總代人 氏 名 印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
加印者 氏 名 印

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (預金取扱手續)

(第貳書式) 用紙美濃紙

預ケ金拂戻請求書

何神社
何教會
何社會
何會社
何々金 (元利息皆ノ) 御拂戻被下度候也
何々共有

明治何年何月何日

(預ケ人氏名住所等ノ記)
(職方第一書式ニ同シ)

預金局長
官 氏 名 殿

(第三書式)

番	號	記	號
第何號通帳	ノ	第何號	
預金拂戻證書		先	渡
何神社		(何 寺) (何 教會)	
(何會社) (何會社)		(共有金氏名) (總代人氏名)	
一金何程也 內金何程也 右金額此證書引換ニ可相渡候也		元金 利子	
預金局長		官 氏 名 印	
明治何年何月何日		何府(縣)何地 國庫金取扱所	
甲 號			

前書金額正ニ受取候也

(何神社(何寺)(何教會)(社寺教會々社ハ其名)
(何會社)(何々共有金)(稱ノ下ニ其印ヲ捺ス)
總代人(擔當者)

氏 名 印

氏 名 印

加 印 者

氏 名 印

明治何年何月何日

甲號拂戻證書裏面記載文

一 拂戻金ヲ受取ルルハ此證書表面受取證欄内ニ記名調印ヲナシ國庫金取扱所へ差出シ之ト引替ニ拂戻金ヲ請取ヘシ

一 此證書ヲ以テ拂戻金引替ヲナスハ表面ノ日附ヨリ左ノ期日迄トス

百 里未滿 二十日

東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 四十日

一 右ノ引替期日ヲ失シタルカ又ハ此證書ヲ失ヒタルトハ國庫金取扱所ヲ經テ預金局へ申出代リ證書ヲ請求スヘシ

(貨幣門)

(預金貸金ノ部) (預金取扱手續)

(第四書式) 用紙美濃紙

定期預金申込書

一金何程也

右金員何年何月何日迄預金入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日

(預金人氏名住所等ノ記
職方第一書式ニ同シ)

預金局長

官氏名殿

○國立銀行條例

(明治九年八月一日
第百六號布告)

明治五年十一月第三百四拾九號布告國立銀行條例ノ廢除議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ書
條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立
シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省へ願出ノ上其免許受候様可致此旨相達候事
(別冊)

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣察ヨリ銀
行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立
スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ
第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役

員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論ゼス(外國人ヲ除クノ
外)五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲ケル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ
紙幣察へ創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其
創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀
行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

第一 銀行ノ名號
但此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所

第三 銀行資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇數

第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナニ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極
メタル旨

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與
書鈐印ヲ受ケタルモノナルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タ

(貨幣門) (預金資金ノ部) (國立銀行條例)

ル者ニ於テモ右創立證書ノ簡條ヲ遵守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ
 第四條 右創立證書ノ簡條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル簡條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ簡條ト同シク遵守スヘシ且右ノ簡條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但右ノ外創立證書中ノ簡條ヲ更正スルコトヲ得ヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲ケタル所ノ雛形ニ準據シ其簡條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立證書ト同様株主一同之ニ記名刷印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミコレヲ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル簡條ハ最初右定款中ニ掲載セシ簡條ト同シク遵守スヘシ且右ノ簡條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙一通正寫ニ通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立證書ハ其

管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿へ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但創立證書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫一通ハ紙幣寮ノ冊簿ニ綴込ミ一通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行へ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル簡條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名刷印シタル開業免狀創立證書銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

第十一條 創立證書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ限ヨサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ヶ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ取ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レハ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス
十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用非社印ヲ鈴スヘシ

但報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算法、簿記其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ズ自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上在前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背反セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

第二章 銀行資本金ノ制限、公債證書、銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾万圓ヨリ下ル可ラス尤人口拾万人以上ノ地ニ於テハ貳拾万圓未満ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但時宜ニヨリ紙幣頭差支ナレト思考シテ大藏卿ヘノ票議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未満ノ資本金ニテモ創立ヲ許スヲアルヘシ

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八割ヘシ然レハ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルヲアルヘシ故ニ新ニ創立シテ額ヲ者アルハ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルヲアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルヲアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ(十一年第五號布告ヲ以テ但書共全條改正)

但公債證書ノ時價低下スルハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充クシムヘシ

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納局ヘ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ預クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

(貸出向) (預金資金ノ部) (國立銀行條例)

第三十一條

此條例第四十條第四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコト
ルコト於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ
増減スヘシ

第三十二條

十六年第十四號布
告ヲ以テ刪除ス

第三十三條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納察ヘ納メ其受取證書ヲ
領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣察ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ名
印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第三十四條

右公債證書ノ受取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署印シタル者タルヘシ尤此公債
證書ノ勘査ニ付テハ該兩察頭互ニ其簿冊ヲ開キ須ラフ注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互
ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第三十五條

此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度(又ハ數
度)銀行ノ役員出納察ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキ
ニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ
但右改入出納察ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第三十六條

右公債證書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之ヲ引換
ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトモハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下附スヘシ
但其引換タル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩察簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條

右公債證書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益勘定
ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ十六年第十四號布告

第三章

株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資
本金増減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ヘ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾
五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金額タルヘ
シ五拾圓ニ拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ムヘ
シ又拾萬圓未満五萬圓ニテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以
テ一株ト定ムヘシ

第二十九條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持ス
ルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ラス總テ其所持株高相當ノ權
利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

第三十條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクト
モ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ
十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

(貨幣門)

(預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

第三十一條 右資本金 月賦入金毎々其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金 集合高届書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主へ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りクル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タレムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ銀店ヲ申渡シ更ニ引受人ヲ命スヘシ

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)ルヘシ

爾後其銀行ノ株主ダラシトテ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳へ差出シ紙幣頭へノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹ケ年中日數三十日ニ過キサルヘシ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナシ姓名ヲ記入セラルヘシ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナシ遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨礙ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳へ差出シ紙幣頭へノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條第三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ

但銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一ケ年中日數三十日ニ過キサルヘシ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

(貨幣法) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルハ假令此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名刷印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承諾ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承諾ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤金ノ入金濟ソ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲ケル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承諾ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス

但紙幣頭ノ承諾ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所存ノ地ニ行ハルハ三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三ヶ月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金預ケ金等アル者ハ未ク其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一ヶ月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金并ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス
第二 其他期限未滿タリ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノヨリ受取ルノ權利アリトス

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲ケル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ幣紙頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背反シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノコトヲ明ラカニス
第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク隱微ノ幣ヲ豫防スルノ術ヲ尽シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ
第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ一圓二圓五圓十圓二十圓五十圓百圓五百圓ノ八種ト定メ

(貨幣四) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

銀行ノ印ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿并ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省并ニ銀行ノ記號番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同機通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用フルヲ許サス

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘシトテ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルコト於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等コト通用シ難キモノアルコト於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ共代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類記號番號金額等ハ

之レヲ紙幣察ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ后ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章 銀行營業ノ本務公債證書其他ノ買賣並ニ貸附金ノ制限利息ノ制限銀行紙幣并ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當坐并ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲替ヲ取組ニ又ハ爲替手形約束手形代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書ノ外國貨幣并ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保證預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲グル所ノ種類ナルヲ以テ公債證書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖田貸附金、預リ金、爲替等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスレテ唯公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲グル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引換

(貨幣門) (預金資金ノ部) (國立銀行條例)

七二九

リ又之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ヨリトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲グル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取りタル地所物件ハ遲クモ十ヶ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸付タル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法

ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアルハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムス十一月第三十一號布告ヲ以テ全條改正

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取りテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レハ貸付金ノ滯リテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六ヶ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ニ運轉流用スルニハ須ラケ之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二五即チ四分一ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ質價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス
第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此例條第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルハ紙幣頭ハ之レヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲替手形約束手形等ヲ仕拂フ

(貨幣門)

(預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

ナスニ當リ兼テ置積キタル準備金ヲ以テ之ヲ價フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應ジ別ニ出金シテ一時之ヲ償辦スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時辨償ノ爲メニシテ其株金小異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辦スヘシ
年第十四號布告
ヲ以テ全條改正

○第六章 銀行名號ノ掲牌、社印ノ書体並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ簡易キ書体ヲ以テ其名号ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告諸證書諸手形諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名号ヲ用ル所ノ者ハ亦同シテ諸易キ書体ヲ用ルヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サレバ或ハ故サラコ之ヲ見逃スニ於テハ是亦同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用ルシメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲替手形、約束手形、切手、證書、注文書、受取證書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ルモノ前條ノ規定ニ悖リテ記名刷印シ又ハ記名刷印セシムルトキハ十圓ヨリ少ナカラズ五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且右等爲替手形、約束手形、切手、注文書等ニ記載

スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルルハ其規定ニ悖リタル役員ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲替手形約束手形ヲ振出シ又ハ之レヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產(動産不動産ノ別ナク)ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書人委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ簿冊毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ當ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナシレバ銀行其所有財產ヲ人質書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノコトアルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ拾置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財產ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採川セラル、ヲ得ヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除ク外毎日午前九時ヨリ午後三時マテスルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

ルコ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其暇キハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若レ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

○第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序諸簿冊ノ點檢及檢査ノ手續諸報告差出方等ノ一ヲ明カニス

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件ヲ評決セシカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限コアラズ

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件簡條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論ゼス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大休ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ評述シテ之カ報告ヲナシ後十四日以外一ヶ月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セス發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頗未チ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ膠寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内之ヲ紙幣頭ヘ差出レテ

其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(則チ十六日ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取々締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシトハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條第六條ニ准據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此簡條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一道ニ付五圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取々締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシトハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此簡條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ムトハ五圓ニ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取々締役支配人等故ヲコ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシトハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ檢査セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依託シ其銀行實際ノ營業(定例臨時ノ別ナク)檢査セシムルヲアルヘシ尤右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

七三五

第七十四條 右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時コトモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業体ヲ検査シ其銀行役員ノ職務コトノ條成規ニ規定スル所ノ簡條ヲ遵奉スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ諸願アルハ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業体ヲ検査セシムルコトアルヘシ但シ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願セシ株主ヘ下附スヘシ

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ生季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名刷印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ
第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトアルハ銀行ニ命シテ臨時ノ

報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取々締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サ、ルハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五拾圓ヨリ少ナカラズ百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カコス同上

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ后之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ同上全條但書共改正
但備カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返済期限ヲ過クルコト六ヶ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

第八十條 同上

第九章 銀行ハ官廳ノ爲替方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサルコト明ラカニス

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勘方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ

(貨幣門)

(預金貸金ノ部) (國立銀行條例)

其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉レテ以テ之ニ從事スヘシ

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲替ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルヲ得サルヘシ

第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命レ其役員ヲ退職セシムルヲアルヘシ同上全條改正

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役等若シ此條例ニ背戻スルヲアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人へ損失ヲ受ケシムルモ其損失ハ頭取々締役等之ヲ償辦スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取々締役ノ承認ヲ得シテ銀行紙幣及ヒ預リ證書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出し又ハ證書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形、爲換手形、諸證書、質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊、計表、報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ各條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常備リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ證人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルモ此等ノ役員ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行へ返済スヘシ

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行并ニ銀行紙幣ノ變造描改及ヒ其版彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ壘次第持參人へ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同様ニ適用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出し其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ事件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ變造スヘカラス變造セシムヘカラス變造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス變造ト知リテ之ヲ通

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)